



月刊 もぐら通信

Mole Communication Monthly Magazine

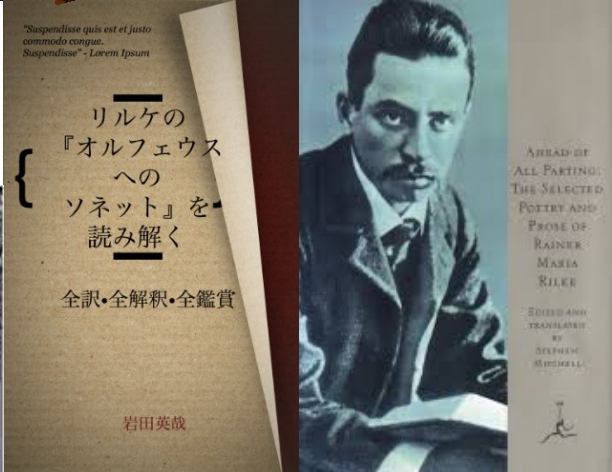
2023年3月1日 第124号 初版

www.abekobosplace.blogspot.jp

あなたへ：
迷う事のない迷路を通して
あなただけの番地に届きます

【『密会』といふ小説】を書くときにはほとんど意識していなかったけれど、書き終ってフッと気がついたら、ギリシャ神話のオルフェウスの話ね、あの構造にひどく似ているじゃないか。つまり、ああいう神話の構造自身の中に読むという衝動を掻き立てる原型があるんだよ。（略）これは冗談だけれど、「良き医者は良き患者」というようなもので、「よき作者は、その前につねに良き読者でなければいけない」という原理があると思うね。

（『都市への回路』全集第26巻、201ページ下段）



安部公房の広場 | www.abekobosplace.blog

『S・カルマ氏の犯罪』の最後に登場する非ユークリッド空間を映写する映写機

目次

- 1 目次…page 2
 - 2 記録&ニュース&掲示板…page 3
 - 3 巻頭詩（12）：娘時代の名前：フィリップ・ラーキン（2）…page 10
 - 4 【全集未収録作品】アジキリはかせのこまったはつめい：安部公房…page 14
 - 5 『周辺飛行』論（35）：3。『周辺飛行』について（21）：「友達」の稽古も——周辺飛行32：「別役実の『友達』論」論も一緒に：岩田英哉…page 28
 - 6 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（7）：塔の文学：5。小林秀雄の塔と安部公房の塔：岩田英哉…page 38
 - 7 私の本棚（32）：逢坂剛著『鏡影劇場』を読む：岩田英哉…page 47
 - 8。Mole Hole Letter（12）：秋は来ぬ：岩田英哉…page 50
 - 9。糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（2）/1。古事記の中の糞尿と性愛/1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚：さて次号：岩田英哉…page 52
 - 10 ネット・メディア論（13）：7.2 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い：さて次号：岩田英哉…page 53
 - 11 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（12）：5.16.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある/（3）第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか：さて次号：岩田英哉…page 54
 - 12 Topologyで日本の文化を解説する「内なる境界」シリーズ（12）：さて次号：岩田英哉…page 56
 - 14 編集後記…page 59
- ・連載物・単発物次回以降予定一覧…page 57
- ・編集方針…page 58

PDFの検索フィールドにページ数を入力して検索すると、恰もスバル運動具店で買ったジャンプ・シューズを履いたかのように、あなたは『密会』の主人公となって、そのページにジャンプします。そこであなたが迷い込んで見るのはカーニヴァルの前夜祭。

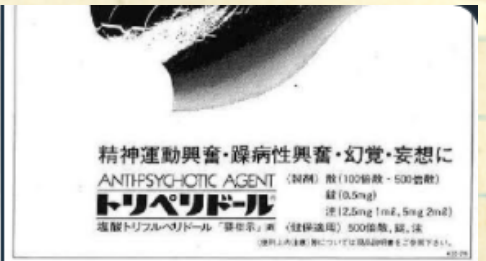
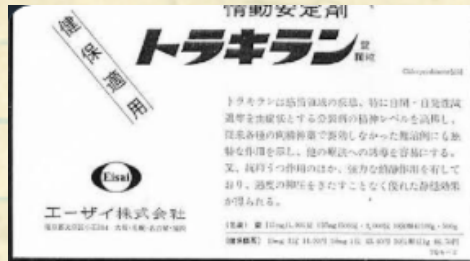
ニュース&記録&掲示板

The best tweets of the month



kissability@nemuishi_hilune・Sep 27

昔の精神薬の広告、安部公房読んでる気分になって好きだ



今月の三島由紀夫

青山 夏魅 (あおやま なつみ) @KSdBTDunnzh1170・Sep 22

「最近の小説は『女は美しい着物に豪華な帯をしていた』などと平気で書く」と三島由紀夫が安部公房との対談だったかで笑っていた。

着物の知識、帯の柄の知識、結び方・・・全てを知らなければ書けないとしたら、創作は甘くはない。

思ったことを書けばいいというものではない。

時代物どうする？ Grinning face with smiling eyes

今月のカフカ

PoodleきあらんこPoodle@chiaranCo・Oct 5

不条理でかつシュールリアリズム

生きる不条理をどの様に受け止めるか、というvariationで安部公房『棒』も名作

シュールリアリズムはそれぞれの頭のなかに浮かぶイメージで大きさと恐さが増幅するものですよ

Quote Tweet

昔の風俗をつぶやくよ@LfXAMdG4PE50i9e・Oct 5

フランツ・カフカによる「変身」。不条理文学として有名ですね。ある青年が目覚めると虫になっていたというこの物語を本にする際、カフカは「変身した虫の姿を描かないでほしい」と要望しました。この要望は基本守られており、近年出版されたArianna Vairoの本でも敢えて虫の姿は描かれていません。

昔の風俗をつぶやくよ @LfXAMDg4PE50i9e · Oct 5

フランツ・カフカによる「変身」。不条理文学として有名ですね。ある青年が目覚めると虫になっていたというこの物語を本にする際、カフカは「変身した虫の姿を描かないでほしい」と要望しました。この要望は基本守られており、近年出版されたArianna Vairoの本でも敢えて虫の姿は描かれていません。



今月の勅使河原宏

木石岳 / Gaku Kiishi / Asahi (macaroom)@asahisism8·Sep 28

今日は映画のお話しました。

前衛映画＝勅使河原宏+安部公房+武満徹「砂の女」「他人の顔」「燃えつきた地図」を語る <https://youtu.be/5Gp3MINB6iA> via @YouTube

(https://www.youtube.com/watch?v=5Gp3MINB6iA&feature=emb_logo)

今月の他人の顔

続・池袋らぶせくしー@RUsrjkCwbF354K8·Oct 13

『他人の顔』（1966）

ずっと観たかった安部公房映画をYouTubeで鑑賞！

ケロイド癩痕を隠すため仮面を作成し他人になった男（仲代達矢）。彼の味わう奇妙な陶酔。自由になった彼が、先ずは妻（京マチ子）をナンパするの可愛い
平幹二郎病院の前衛ぶり、看護婦岸田今日子のセクシーさ…カルトやね



ホッタタカシ@t_hotta·Oct 18

安部公房『他人の顔』を連想したり、ピンク・フロイド『ザ・ウォール』のライブ版で、メンバー4人のお面をサポートメンバーがつけた贗バンドが登場したことを思い出したり。

【あなたの顔、4万円で買います—— 仮面専門店が超リアルなフェイスマスクのモデルを募集】



あなたの顔、4万円で買います—— 仮面専門店が超リアルなフェイスマスク...
まず「店主の顔」を販売。
nlab.itmedia.co.jp

今月の『人肉食用反対陳情団と紳士たち』

ZoNeS@ZonesZon・Oct 28

安部公房

『人肉食用反対陳情団と紳士たち』

タイトル通りの不穏な内容。

肉食文化を楽しむにあたって、肉サイドと意思疎通できないという前提がいかに重要か今さらながら感じました…

#日本怪奇幻想読者クラブ



今月の島田雅彦

本ノ猪@honnoinosisi555・Oct 13

安部公房と島田雅彦（『新潮』第八十五巻、第五号、昭和63年、P13）。



今月のシンセサイザー

本ノ猪@honnoinosisi555・Oct 13

「安部（公房:引用者注）さんのメカ好きは有名だったが、日本にまだシンセサイザーが三台しかなかった頃、一台はNHK、もう一台はプロのプレイヤーで作曲家の冨田勲、そして、三台目を安部さんが持っていた。」（島田雅彦『君が異端だった頃』集英社、P244）



今月の穴

MONKEY@monkey_info1・Oct 9

柴田元幸です。10月6日ニューヨークタイムズに載った小山田浩子『穴』（David Boyd英訳）Hilary Leichterの書評、とてもよかったです <https://nytimes.com/2020/10/06/books/review/hiroko-oyamada-hole.html>… 安部公房の砂丘や村上春樹の井戸と接続させつつ、「日本の小説というもの」一般論に落とし込まずこの一冊の個性をちゃんと伝えていと思う



She Tumbled Into a Hole, and Her World Broke Open

Hiroko Oyamada's novel "The Hole" is a surreal and mesmerizing tale about gaps in memory and a woman's transformation.

[nytimes.com](https://www.nytimes.com)

今月の椎名麟三

愛書家日誌@aishokyo・Oct 1

1911年の今日は日本の小説家、椎名麟三が生まれた日です。苦勞人。安部公房によると酒を飲むと泣くらしいです。



今月の砂の女

山陽堂書店@sanyodobook・Oct 1

「#本にあうビール」企画

インドの青鬼に合わせて山陽堂書店がおすすめしたのは

「砂の女」安部公房・新潮社。期間中の山陽堂珈琲

(山陽堂書店3階) 営業日には3種類のビールもご

注文いただけます。各種600円での提供です。

(10月1・2・3・7・8・10日)



朝比奈齋@asahinaituku・Oct 14

DAY 13 DUNE

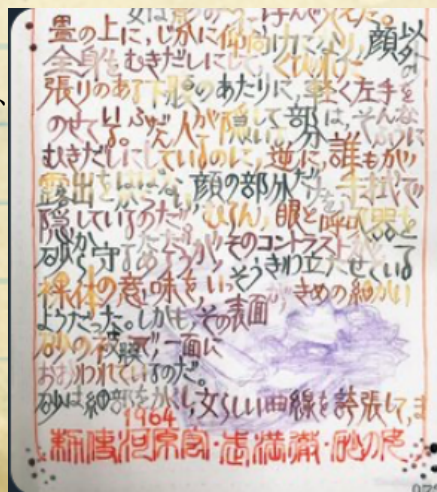
安部公房「砂の女」より抜粋

インク文字、狂気的な砂のようで

あれかし。勅使河原宏監督の映画版、

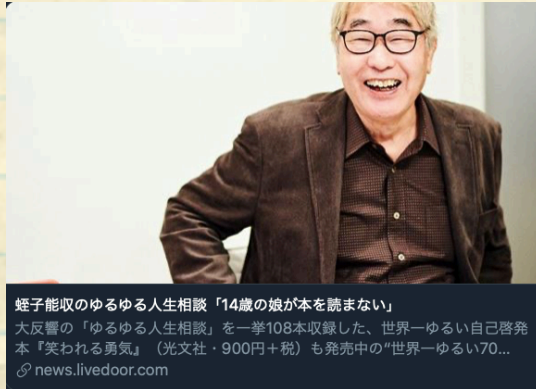
音楽が武満徹だったのか！そして

岸田今日子…！



ホッタタカシ@t_hotta・Oct 28

「オレは生涯で1.5冊しか本を読んでない」、と豪語する蛭子さんが唯一読了した本が、安部公房『砂の女』だそうです。【蛭子能収のゆるゆる人生相談「14歳の娘が本を読まない」】 #ldnews



今月の箱男

LS@@natsunimukau・Oct 17

金沢21世紀美術館へ「移住を生活する村上慧展」（無料、撮影可）を拝見。2018「変容する家」展で自作の家に入り移動する村上氏を知り、箱男@安部公房が実在することに衝撃を受けた。現在、美術館の中の蟻の行列のような展示は村上氏の歩いた跡をつなげたものである。画像は犀川大橋を移動（移住）中。



酔っ払い科学者@yopparai_chmist-Sep 29
昔、安部公房の「箱男」の中にある下記の一節に何故か凄く心を掴まれて忘れられずにいたんだけど、このTeststeronさん(@Badassceo)のツイートでふに落ちた気がする。

共感の範囲を広げると人は無力感に打ちひしがってしまう。身の回りの小さな事を大切にすることで人は辛い現実を生き抜けるのかも。

小さなものを見つめていると、生きていてもいいと思う。
雨のしずく……濡れてちぢんだ革の手袋……
大きすぎるものを眺めていると、死んでしまいたくなる。
国会議事堂だとか、世界地図だとか……

Testosterone @badassceo · Sep 28

大事な話をします。人間は普段、自己防衛のため他者に共感する半径を無意識に小さく保っています。半径を広げすぎるとどうなるかというと、アフリカで飢えている子供に同情して食事が喉を通らなくなったり、自分だけ幸せに過ごすのは間違ってるのではという気分になり、日常生活が送れなくなります。

Show this thread

今月の頭木弘樹

白石正明@shiraishimas・Oct 1

頭木弘樹さんの連載「咬んだり刺したりするカフカの変身」 (@みすず10月号)。日本で最初のカフカ本『審判』は6、7冊しか売れなかったが、その一人が当時高校生だった安部公房だったとか最高すぎる。にしても次回3回目からようやく表紙をめくって本文に入る、とはスローリーディングにもほどがある笑



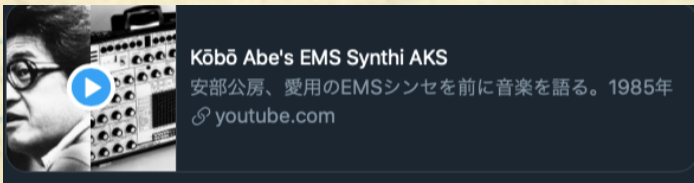
今月のシンセサイザー

Akinobu Oda@mapupnews・Oct 18

今日、誠光社の堀部さんに教えてもらった安部公房がシンセをいじっていた話。こちら、EMS Synthi AKSだったのかー。安部公房っぽいなー。ちなみに、自分の名前の晶房の房は安部公房からいただいたそう。重い(笑)。

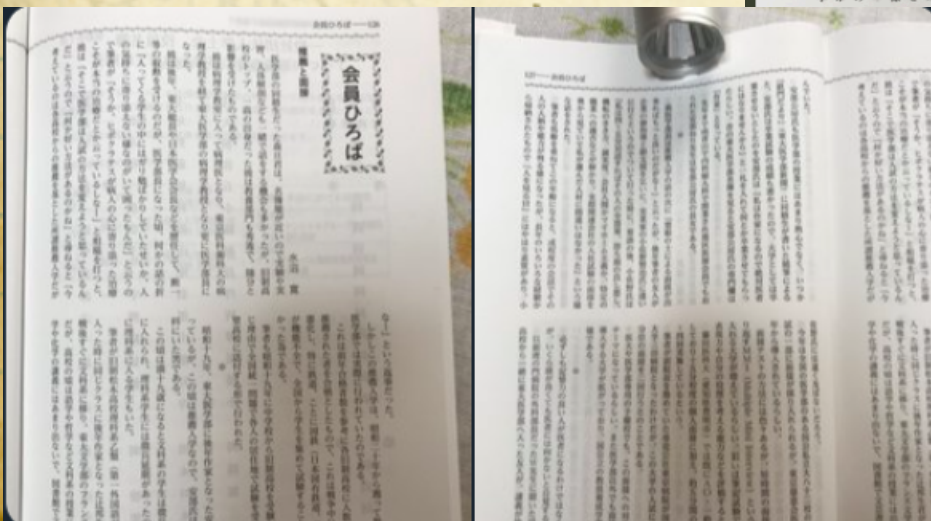
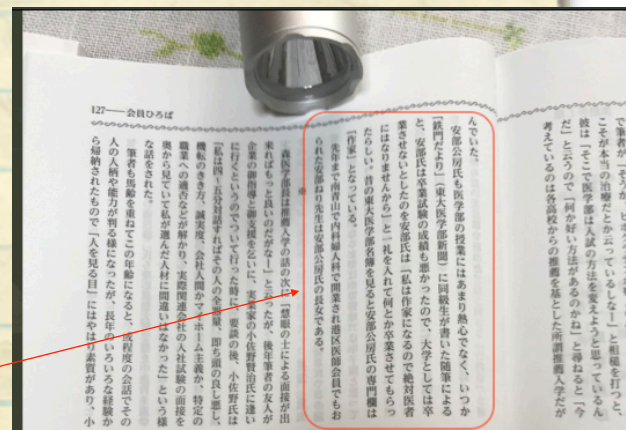
https://youtu.be/2RttZ3J5_YE @YouTube

より



今月の学会報

肥和野 佳子@lalahearttwit・Oct 11@minilataalk
安部公房の話は、「学会報」のこれですよ。



今月の贗カンガルー・ノート

ホッタタカシ@t_hotta・Oct 24

ミドリから「南国カンガルーノート」なるものが売られているらしいが、安部公房とのコラボ商品ではないらしい。

【思い出を簡単にログする文房具！『南国カンガルーノート』 - 『本と文房具とスグレモノ』】



思い出を簡単にログする文房具！『南国カンガルーノート』 - 『本と文房具...
思い出を簡単にログ出来る『南国カンガルーノート』 「南国カンガルーノート」の商品説明 『南国カンガルーノート』の素敵な使い方考察 南国カンガ...
fumihiro1192.com

今月の狂気

Chisato Murata@神奈川のC@AshitaMurata・Oct 27

独特の冷静な中での狂気、がありますよね。wikiで調べてみましたが若々しい風貌ですね。この本に収められている「通いの軍隊」という作品で初めて読みました。テーマが戦争ですが、小松左京や伊藤計劃、安部公房など個性豊かな作家たちによるコレクションで面白いです。



巻頭詩
(12)
娘時代の名前

フィリップ・ラーキン

PHILIP LARKIN

MAIDEN NAME

Marrying left your maiden name disused.
Its five light sounds no longer mean your face,
Your voice, and all your variants of grace;
For since you were so thankfully confused
By law with someone else, you cannot be
Semantically the same as that young beauty:
It was of her that these two words were used.

Now it's a phrase applicable to no one,
Lying just where you left it, scattered through
Old lists, old programmes, a school prize or two,
Packets of letters tied with tartan ribbon—
Then is it scentless, weightless, strengthless, wholly
Untruthful? Try whispering it slowly.
No, it means you. Or, since you're past and gone,

It means what we feel now about you then:
How beautiful you were, and near, and young,
So vivid, you might still be there among
Those first few days, unfingermarked again.
So your old name shelters our faithfulness,
Instead of losing shape and meaning less
With your depreciating luggage laden.

【和訳】

娘時代の名前

結婚したので、お前の娘時代の名前は使はれぬままに放つてをかれた
その五つの軽やかな音は、もはやお前の顔を意味してゐない
お前の声も、そしてお前の優雅な色々な仕草や表情も。
といふのも、お前が、かくも有り難きことに混同したからで、
ほかの誰かと法律によつて、お前は
語義の上でも、あの若き美人と同じであることはできないのだ。即ち、それは、若
き・美人といふ二語の使へた彼女のことであつたから。

かくして今や、それは、誰にも使へぬ文句になつて、
お前が残した場所に、散らばつたままに
古い名簿や、古い予定表や、学校の賞状の一つ二つや
格子縞（タータンチェック）のリボンで結はへた幾つもの手紙の束や—
だからといつて、これは香りのない、重みのない、強さのない、全体として
本当のものらしくないものだとでもいふのだらうか。ゆつくりと、その二語を囁いて
ご覧。
さう、そんなことはないのだ、それはお前のことを意味してゐるのだから。或は、お
前が過去であり、そして去つてみなくなつてしまつたのだから。

それは、それなら私たちがお前について今何を感じてゐるかを意味してゐるのだ。つ
まり、
如何にお前は美しかつたのかを、傍にゐたのかを、そして若かつたのかを、
かくも生きいきとしてゐたのかを、お前は今も尚其処にゐるのかも知れない
これらの最初の数日の日々の合間に、指一本触られたことのない者として再び。
かうして、お前の古い名前が、私たちの忠実な心を守つてくれてゐる、
姿形を失ひ、意味も失ふ代はりに
世間では時間とともに物質的な価値の減じて行くお前の旅行鞆が重たくなつて行くこ
とで。

【解釈と鑑賞】

前回の詩の印象があるので、今回の此の詩にも何か辛辣なものがあるのかと思ひなが
ら、一種ビクビクしながら読み訳してみると、娘を嫁がせた父親の心情がしみじみと
歌はれてゐる詩でありました。

この詩にある、本居宣長風に云ふ玉の緒は、mean（意味する）といふ言葉で、これ
がどの連にも出て来て詩の全体を纏めてゐる。

第一連は文字通りに二行目に、最後から二行目にはsemantically（語義の問題としては）に、最後の行には二語（two words）にといつたやうに。

第二連には、一行目のphrase（文句）が、最後の行のmean（意味する）に。第三連には、一行目にmeanが文字通りに、最後から二行目にmeaning less（無意味）が、世間では物の価値は時間とともに減価償却されるといふのに（depreciating）、お前の古い名前、即ち私たちの家族であつた時代の名前は、思ひ出の詰まつた旅行鞆の中で世間の時間とは正反対にいよいよ重くなつて行く。これが意味といふものだと云つてゐる。

旅行鞆といふ語彙の選択に、しばし家を出てゐるが、また戻つて来るといふ親心が表れてゐる。このしばしがどれ位の長さであるものか。

原詩を日本語に翻訳するといふのもなかなか難しいことで、例へば第一連の一行目のdisused（使はれずに）も随分ときつい調子のものの言ひ方で、その分親としての強い惜別の思ひが出てゐるのですし、その思ひを思ひ切らうといふ強い意志もある。Marryingは、かうしてみると、結婚してしまつたので位に訳すのが丁度良いのかも知れないのです。もう取り替へしがつかない、もう娘は戻つて来ない。この最初の一行の断言の口調の、感情の激しさといつて良いものは、最後の連の減価償却（depreciating）される旅行鞆で救はれてゐる。詩の読者としては、そのやうに思ひます。

第一連二行目のfive light soundsとは、いふまでもなく、m・a・i・d・e・nの五文字で、ここからは親の思ひは追想の世界に入つて行きます。有り難いことにお前は他の誰かと法的に混同されてしまつた（confused）といふ意味は、これも云ふまでもなく、他の男性と結婚して姓が変はつたといふ意味ですが、有難いことといふ文全体にかかる此の副詞の意味も、このやう読んで来ますと、男親の複雑な心境を表してゐる。さうすると、semantically（意味論的には）などといふ副詞も嫌に形式張つたものの言ひ方で、返つて、この父親の学識を示しながらも、しかし其の感情の吐露を押しへんがための言葉の布置であることが知られるのです。この詩人は前回の詩と云ひ今回の此の詩と云ひ、一見乾いてゐて余り情緒的ではないと思はれるのとは正反対に、やはり其の感情の伏流水がかうして地表に出てきてしまふ、或は其れがさうと読めるやうに書くことで詩の品位を保ち、英語の詩となすといふ努力であるのです。

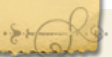
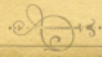
第二連は第一連の追想の世界へ入つた後を受けて、一層具体的な物の名前が列挙されてゐて、不思議なことに個別の言語を問はずに、事物といふのは名前を列挙しただけで、そのまま詩になるものなのです。この桂冠詩人も同じことをしてゐる。試しになさつてみては如何か。My favorite things（私の好きなもの）の名前を挙げてみるのです。その列挙に曲をつければジャズのスタンダード・ナンバーになるのです。

第二連の最後の一行は、話者は、嫁がせた娘の思ひ出を、反語的な語調で反芻しながら、一通り経巡つて、心も落ち着いて書かれた静かな一行になつてゐます。

かくして、第三連では、娘の美しさがそのまま率直に歌はれ、歌ふことのできる明るい連になつてゐる。Those first few days (これらの最初の数日) といふ言葉の意味は原文通りに訳しましたが、その心は、今となつては人生の最初の数日、即ち数少ない日々といふことでありませう。最後の行のdepreciating (減価償却する) といふのは実に散文的で、この詩人らしいと思ひます。しかし、娘の結婚を家からの旅路への出立に譬 (たと) へ、旅行鞆に譬へてゐるのですから、その散文的な表現の後には同時に、既に上述のところでもみたやうに豊かな感情が息づいてゐるのです。娘はまだ帰還してゐない。Those first few days (これらの最初の数日)、とすれば、娘と別れてから相当に時間が経つてゐる。

これがラーキン自身のことかどうかは解らない。この詩人は生涯独身でありましたから、他家の話を聞いて此の詩を書いたものか。しかし、話者は既に自分の娘の「娘時代の名前」の意味 (mean) を十分に知つてゐるのは、詩人は独身とは云へ男であり、しかし何よりも、対象に成るといふこと、これが詩人といふ人間の能力だからです。

10



【全集未収録作品】

アジキリはかせのこまったはつめい
(『たのしい三年生』1958年九月号)

安部公房





もくじ

(たのしい三年生9月号)

(がくしゅうページ)

- (国語) 楽しい国語 108
- うまのたまご 108
- (算数) タビタ機がたり 108
- 算数あそび 108
- (理科) はうがくしらべ 108
- のぞいてごらん 108
- (社会) スターター日本のてり 108
- おり物工場 108

もくじカマド 安 彦

- たかしのこぶとら 108
- 人工のせいりうち上げ 108
- 話のできるうま 108
- はしのつゆめのぬい 108
- おもしろアスト 108
- おとだちのすが 108
- アジキのはかせめ 108
- やまのう 教室 108
- こまのつづめい 108
- とんぼのーしよー 108
- かんづめのできるまで 108
- まのー 108
- かんづめのできるまで 108
- 世界ニュース 108
- 動物ニュース 108
- 科学ニュース 108
- おたんじょう日おめでとー 108
- おたんじょう日おめでとー 108
- アフリカのしぜん動物園 108
- はくはつんつんつづめく 108

- ピンピン生ちゃん 108
- ロボットS-1号 108
- ラッキーちゃん 108
- 水田 竹 108
- 空とびでんすけ 108
- 山田 108
- ゆりちゃん 108
- 山田 108

- アルプスの少女 108
- 名犬ラッシー 108
- なたく太子 108
- 風の子 108
- フオード 108
- タトルくんのぼうけん 108
- ふえのわかまる 108
- おさるこぞう 108

10月号のお知らせ 108



アジキリはかせの こまった

はつめい



アジキリはかせの名まえ
なら、だれでも知っている。
名まえがおかしいからではな
い。りっぱなはつめいだから、
ゆうめいなのだ。

アジキリはかせは、日本一
のがくしやだ。

あべ こう ぼう まく
安部公房 ☆ 作
ば ば
馬場のぼる ☆ え



て、そのアジキリはかせが、自分のが
くもんを、にんげんのこうふくのため
につかおうと考^{かんが}えた。それには、にんげん
をこうふくにするさかいをはつめいするの
が、一番のちか道^{みち}だ。しかし、アジキリは
かせは、どうどくの先生^{せんせい}ではなかつたか
ら、なにがほんとうのこうふくなのか、い
くら考^{かんが}えてもわからない。「こうふくとは
なにか。」ということがわからなければ、こ
うふくを作るさかいはつめいすることも
できないので、とてもこままってしまった。
(みなさんはどうです。わかりますか。)
そこで、アジキリはかせは、にんげんのお
こないや心^{こころ}のけんきゆうでゆうめいな、
ある大学の先生^{せんせい}をたずねて、聞いてみるこ
とにした。大学の先生^{せんせい}なのだから、もち
ろん、きょうじゅである。でも、名^なまえは

いわないことにしておこう。この先生は、あ
とで、どこへ行ってしまったのか、わからな
くなってしまったのだ。だから、みなさん
も、そのきょうじゆの名まえなんか、わざわ
ざおぼえなくてもよろしいのだ。

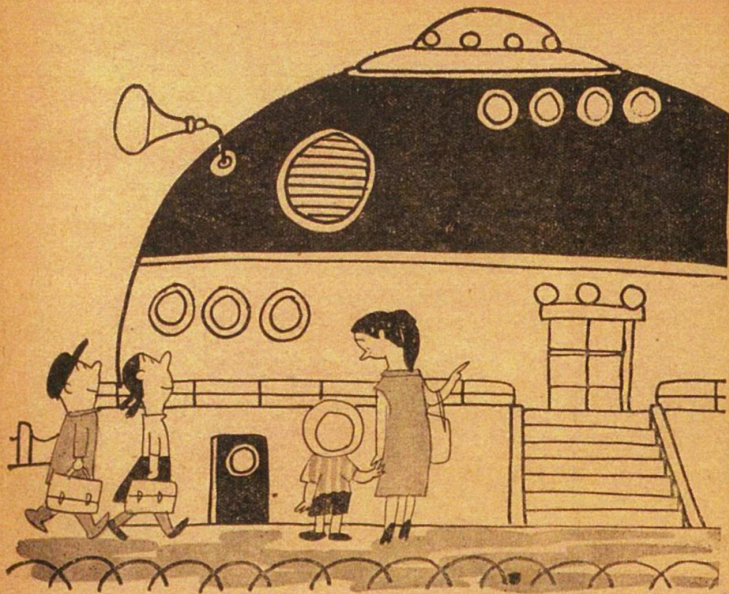
ア
ジキリはかせが聞いた。
「ねえ、先生。こうふくとは、いったい
なんでしよう。」

きょうじゆは、入ればがとび出さないよう
に、くちびるをすぼめて、小さな声でこたえ
た。

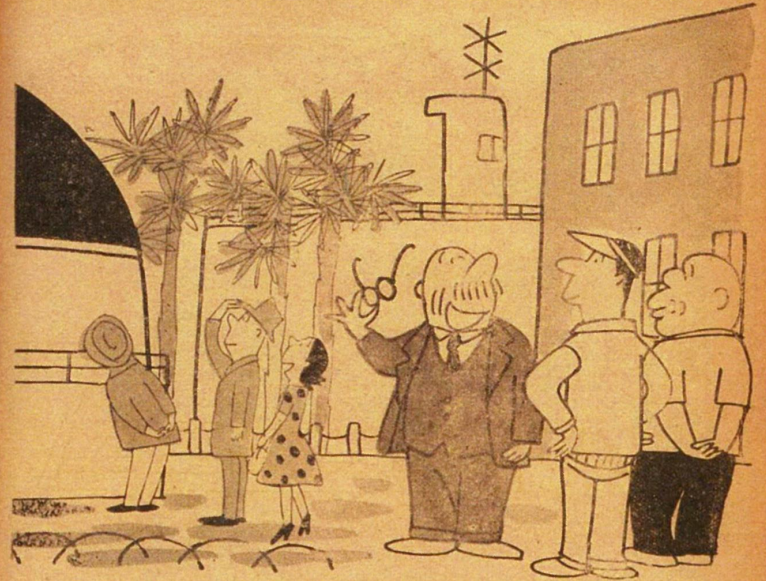
「さよう。こうふくとは……さよう。つま
り、こうふくだと心で思うことでしょうな。
こうふくは品物ではなく、心の中の考えだか
らね。」

（そうてしようか。みなさんも、そう思いま
すか。）





もずっと大きくて、プラネタリウムとおなじに、上から、よこから、うしろまで、ぐるりとえいがかうつるのだ。てんねんしょくで、においがついている。海がうつると、ぶんと海のおいがしてくるし、花がうつると、ぶんと、花のおいがしてくるのだ。そのうえ、アジキリはかせは、すごいはずめいをした。いすにつけた電気じかけて、いたいかんじや、おんどのかんじや、おなか、いっぱいになったかんじなんかも、かんじるようにした。だから、このえいが見ていると、自分が、えいの中の人のような気がする。それで、えいがと、ほんどうのくつがつかなくなってしまうのだ。なにもたべていないのに、たべたような気がするし、はらべこなのに、おなかいっぱいになったような気もちになって



でも、アジキリはかせは考えたのだ。えらい先生のいうことなのだから、まちがいはないだろう。こうふくだと思うことが、ほんどうのこうふくなら、にんげんをこうふくに作るきかいを作るのも、むずかしいことではない。

つそく、アジキリはかせは、きかいのはづめいを始めた。きかいができあがるまでには三年かかった。

できあがったのは、ほんどうに、りっぱなきかいだった。とにかく、びかびかに光って大きいのだ。プラネタリウムのようにな。まるでんじょうの、それはそれは、大きなえいがかんだった。

えいがかんといっても、もちろん、きみたちが知っているような、ふつうのえいがかんではない。シネマスコープなんかより

き
しまうのだ。なんとというへんりなきかいだろ。う。
かができあがると、アジキリはかせは、
前に話を聞いた大学の先生を一番にしよう



大学の先生は、いすにすわって、えいがけん
ぶつを始めた。ほんとうにすばらしいえいが
だった。なんのしんばいもなく、朝からばんま

たいした。
「さあ、どうぞ。ごちんがえし
に、先生にまっさきに見ていただ
くことにしましたよ。」
「それはそれは、ありがとう。」
「きねんに、先生にこのきかいの
名まえをつけていただくと思
います。」
「それはうれしい。では、こうふ
くかんというのはいかがですか。」
「こうふくかん……。なるほど、
いい名まえですね。ありがとう。
では、どうぞ、ゆっくりごらん
なってください。」

て、ただ、音楽を聞いたり、ごちそうをたべたり、あそんだりばかりしていればよい、てんごのよ様な生活だった。一時間の間に、えいがの中では、十年間がすぎさった。

さ て、えいがが終ってみると、ふしぎなじけんがおこっていた。大学の先生のすがたが、どこかへきえてしまったのだ。あわてさがしまわると、先生がすわっていた いすの下に、ようふうだけがぬけがらになっておちていた。先生は、いったいどこへ行ってしまったのだらうか。

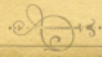
(いかがです。みなさんにはわかりますか。)

アジキリはかせには、もちろんすぐわかったさ。なにしろ、日本



一のかがかくしゃなんだ。えいがは一時間で終つたが、そのお話の中では、ゆめのよ様な十年間

がすぎさったのだ。先生は、なんにもたべず



に、心
 の中でたべたとかんじる
 だけで、おなかが いっぱいになったよう
 なつもりになっていた。ほんとうにはないもの
 をたべて、十年間もくらしていたのだから、か
 らだなくなってしまうのもどうぜんだろう。
 ほんとうに、もうしわけないことをした。
 と、アジキリはかせは、ぬけがらのふくを

つまんでふつてみながら、きえた
 先生にあやまった。
 こうふくとは、ただ心で思うこと
 だという先生の考えは、やはりま
 ちがいったらしい。にんげんにひつ
 ようなのは、おなかが いっぱいだとか
 かんじるのではなく、ほんとうにえいよう
 になるものを、ほんとうにたへることなのだ。
 「ああ、わるいことをしてしまったよ。」
 と、はかせは、むねをたたいて、大声にさけぶ
 のだった。
 「わたしは、こうふくを作るきかいはつめい
 するつもりで、ほんたいに、人ごろしをするき
 かいを作ってしまった。いったい、どうしたら
 よいのだろう。」
 (おわり)
 (みなさんの考えはいかがです。はかせに手紙
 を出して、おしえてあげてください。)

ヒマラヤの山おくに

出たぞ、雪男

世

界のやねといわれる ヒマラヤ山脈には、にんげんとゴジラのあいの子のような雪男がいるといわれています。

それで、ヒマラヤのたんけんたいとはべつに、この雪男さがしのたんけんたいも、今まで、たびたびヒマラヤに出かけています。

アメリカのたんけんたいは、二か月のたんけんを終えて、六月のすえ、インドのニューデリーにかえってきました。その中に、

まめ新聞



しは雪男を見た。というた
いいんの話によると、雪男は、
せいの高さ一メートル二十セン

チぐらい、かおをのぞいて、からだ
じゆう黒い毛につつまれ、あたま

の毛は、長くたれさがっているそう
です。五月十二日の夜、東ネパールの
アルンという谷川で、雪男のすき
な、大きなかえるをえさに、しのび

こんでいると、夜中の二時ごろ、
大きな音をたてて、川にとびこむも
のがありました。すぐ、たいまつを
つけてみると、いまいったとおりの
すがたのものが、口にかえるをくわ
えて立っていたというこ
です。しかし、たちまち、
二本足で立ったままのすが
たて、風のように走って、
くらやみの中に、見えさつ
たといひます。

ヒマラヤ山脈



解題

この作品を書いた1950年代後半には、安部公房は子供向けの作品を、それも子供が空を飛ぶやうな、さういふ意味では人が空を飛ぶといふ形象は安部公房の世界では其の人は詩人でありますから、子供を詩人として描き、子供のための作品を複数書いてみます。発表の場は主にラジオといふ媒体（メディア）です。『ひげのはえたパイプ』などは当時の子供がどんなに夢中になつてラジオに耳を傾けたかは、これまでの安部公房論の何処かで既述の通りです。「詩人から小説家へ」の図を掲げます。これで此の作品の活動上での位置が解ります。全体図のダウンロードは：<https://docdro.id/JKlufcJ>

PHASE 2 存在からの出発													
存在と国家・社会が拮抗してゐる時代										国家と社			
	安部公房藝術家人生線 悪の年												
1953/12/31 3歳	1953/3/1 29歳	1954/2/15 30歳	1955/2/25 31歳	1956/1/1 32歳	1957/1/1 33歳	1958/7/1 34歳	1959 35歳	1960 36歳	1961/4/1 37歳	1962/6/8 38歳	1963 39歳	1964/1/1 40歳	19
人稱の語法 はしくなつてゐる			猛獣の心に 計算機の手 を										
コカカリヤB （リイカ版）			散文版「詩の 運命」										
立下札の使用 （麻に空→カルマ孤劇 である）	R62号の 発明	航機同盟		けものたち は故郷をめ ざす	第四間水期				無関係な死	砂の女		他人の顔	終 標
話者が主人公（三 人稱）を 語る語法		マルクス主 義と超越論 の一次元上 での統合を 認った作品										雑誌「群 像」版	
1953/1/1 2舟	1953/10/1 壁あつき部屋 （シナリオ）	1954/2/1 パニック	1955/4/1 盲腸	1956/1/1 手段	1957/1/1 鏡と呼び	1958/6/23 幽霊はここ にいる	1959/3/25 人間モック リ（テレビ ドラマ）	1960/1/1 賭	1961/3/6 お化けが街 にやってくる た（後編） （ラジオド ラマ）	1962/11/2 時間しゃう ぜんします た（ラジオ ドラマ）	1963/2/23 襲入者 （TVドラ マ）	1964/1/1 複製本武蔵 砂の女 （シナリ オ）	1964/1/1 安 部 公 房 の 最 後 の 時 刻
2/6/1 都市	1953/3/1 「1953年 は『壁あつ き部屋』 （シナリ オ）の1年 である	1954/3/1 →犬	1955/6/17 どれい狩り （戯曲）	1956/1/1 探偵と彼 （エッセ イ）	1957/2/15 東欧に行く （戯曲）	1958/10/3 円盤きたる （テレビド ラマ）	1959/5/11 ひげの生え たパイプ （テレビド ラマ）	1960/1/1 くぶるん びすてなむ い（テレビ ドラマ）	1961/3/6 お化けが街 にやってくる た（ミュージ カル）	1962/3/10 おとし穴 （シナリ オ）	1963/2/28 チャンピオ ン（ラジオ ドラマ）	1964/3/1 砂の女（ラ ジオドラ マ）	1964/9/25 他人の顔 （講談社 版）
2/6/1 トローのわな		1954/4/1 変形の記	1955/7/1 棒	1956/3/1 鍵	1957/5 人間修業	1958/10/3 円盤きたる （テレビド ラマ）	1959/6/30 可愛い女 （ミュージ カル）	1960/1/1 くぶるん びすてなむ い（テレビ ドラマ）	1961/3/6 お化けが街 にやってくる た（ミュージ カル）	1962/3/10 おとし穴 （シナリ オ）	1963/2/28 チャンピオ ン（ラジオ ドラマ）	1964/3/1 砂の女（ラ ジオドラ マ）	1964/11/27 他人の顔 （講談社 版）
2/10/1 3層		1954/5/1 死んだ娘	1955/8/15 独裁者	1956/3/1 鍵	1957/5 人間修業	1958/10/3 円盤きたる （テレビド ラマ）	1959/6/30 可愛い女 （ミュージ カル）	1960/1/1 くぶるん びすてなむ い（テレビ ドラマ）	1961/3/6 お化けが街 にやってくる た（ミュージ カル）	1962/3/10 おとし穴 （シナリ オ）	1963/2/28 チャンピオ ン（ラジオ ドラマ）	1964/3/1 砂の女（ラ ジオドラ マ）	1964/11/27 他人の顔 （講談社 版）
2/12/1 プロの裁判		1954/8/24 が歌った	1955/8/24 独裁者	1956/3/1 鍵	1957/5 人間修業	1958/10/3 円盤きたる （テレビド ラマ）	1959/6/30 可愛い女 （ミュージ カル）	1960/1/1 くぶるん びすてなむ い（テレビ ドラマ）	1961/3/6 お化けが街 にやってくる た（ミュージ カル）	1962/3/10 おとし穴 （シナリ オ）	1963/2/28 チャンピオ ン（ラジオ ドラマ）	1964/3/1 砂の女（ラ ジオドラ マ）	1964/11/27 他人の顔 （講談社 版）
2/12/15 ノック物語		1954/12/1 奴隷狩	1955/12/1 独裁者	1956/3/1 鍵	1957/6/1 誘惑者	1958/10/3 円盤きたる （テレビド ラマ）	1959/6/30 可愛い女 （ミュージ カル）	1960/1/1 くぶるん びすてなむ い（テレビ ドラマ）	1961/3/6 お化けが街 にやってくる た（ミュージ カル）	1962/3/10 おとし穴 （シナリ オ）	1963/2/28 チャンピオ ン（ラジオ ドラマ）	1964/3/1 砂の女（ラ ジオドラ マ）	1964/11/27 他人の顔 （講談社 版）
		1954/12/1	1955/12/1	1956/3/1	1957/6/1								

この時期の作品のひとつです

1955年辺りを境に安部公房は詩人との表立った、といふ意味は資料に文字として残る活動をしなくなります。これも既述の通り。子供のための作品を書くといふことが、安部公房にとっては詩人たちとの交流の代替であり、何かの補償であつた。この『アジキりはかせのこまったはつめい』もまた、この活動の一環で書かれたものです。なりゆきを見れば、詩を子供の世界（を舞台にすること）に求めた。

安部公房の読者ならば、この作品の展開と結末を読んで『魔法のチョーク』を連想するでせうし、あるひは『第四間氷期』を思ひ出す読者もゐることです。私は安部公房が『箱男』（1973年）刊行後の講演で作者が聴衆に強く問ふてゐる、あなたは腹をすかしても自由がいいか、それとも腹一杯食べることのできる奴隷がいいのか、どちらを選ぶかと云ふ問いを思ひ出しました。この問いは、貧富の格差が益々増大してゐる今の世界経済・日本経済の今日でも、否、今日であればこそ、依然として有効な問いのままです。以下、ここからは解題を離れて、筆の滑るままに。

これに比べれば第二次世界大戦終了にまだ近い時間の中で（1964年）、さうしてしかしヨーロッパの経済的復興の繁栄の中にあつて自分自身は其の富の享受者であつた筈の、また嘗てのフランスの植民地主義による収奪を反省することなく、サルトルといふフランスの哲学者の問ふた偽善的な問い「アフリカの餓えてゐる子供たちの前で文学は有効か」〔註1〕といふ問いは無効であるといふことが今や明かです。文学は文学、経済は経済、此の后者の経済の問題の解決を図るのは政治の問題といふ平凡な解答に戻る。範疇の混同をすれば、私たちは偽善者になり、平気で人を隠喩ではなく実際に殺すやうになるのは歴史的事実です〔註2〕。当時このサルトルの範疇の混同をした偽善的な言葉に猿廻しの猿のやうに踊らされた知識人が日本にもたくさんゐた。当時の猿回しはソヴィエト共産党であつたが、今は中国共産党が猿廻しで、これに気づかずに喜んで猿になつて綱紐の類に身を縛られて操られてクルクルと廻つてゐる日本人が金と権力の世界に大勢ゐる素晴らしき日本の国である〔註3〕。共産主義・全体主義ほど民主と云ふ言葉の好きなものはない。与党野党の党名を見よ。いずれも同じ穴のムジナである。俺たちは違ふぞと云つて、上野動物園の日本猿が毎日笑つてゐる。試しに行つてご覧。猿が気の毒がつて、入園料を負けてくれるから。

〔註1〕

サルトルの発言は次のものです (<https://odd-hatch.hatenablog.jp/entry/20170220/1487549753>) :

「1964年、サルトルが「言葉」を発表した際、スキャンダルが起きた。すなわち、「『ル・モンド』紙は、女流記者ジャクリーヌ・ピアチエによるサルトルとのインタビューの記事を発表したが、このときサルトルは、「飢えて死ぬ子供を前にしては『嘔吐』は無力である」、「作家たるものは、今日飢えている二十億の人間の側に立たねばならず、そのためには、文学を一時放棄することも止むを得ない」と発言して話題を呼んだ」。この発言は大きな反響を呼んだ。この国でも大江健三郎がこの問いかけにこたえようとするエッセイをいくつか書いているくらいに。そのうえこの年にノーベル文学賞を受賞したが、サルトルは拒否して注目を集めた。」

（ちなみに、1966年来日してこの国の知識人にル・モンド誌インタビューの真意を問われたとき、「聞いてくれるな（超訳）」とうやむやにした。サルトル/ポーヴォワール「サルトルとの対話」人文書院）」

[註2]

安部公房の欧米の植民地主義に関する発言には次のものがある：

「本当に話したいのは、国際情勢よりも、むしろ一般的な権力のメカニズムについてなんだ。けっきょく、そうした植民地主義の展開は、どうもヨーロッパのルネッサンスと照応し合っているような気がして仕方がない。ルネッサンスから産業革命へといくプロセスの中で、次第に近代国家に向けて権力による統合が進められた。ヨーロッパの中でも、分割や支配がブルドーザーみたいに駆けぬけた。王権から国家権力への移行だね。同時に生産効率が加速度的に向上する。王権と国権では、馬と機関車くらい効率がの差があるからね。海外からの収奪にも拍車がかかる。自分の国の中では民権をすすめながら、国外で奴隷の再生産をこころみる。」『錨なき方舟の時代』全集第27巻、158ページ下段～159ページ上段)

「けっきょく世界は植民地支配国と、被支配国の二つに分けられる。(略)ところがなぜか日本は植民地化されなかった。地政学的には当然侵略の対象になってしかるべきアジアの一角にありながら、なぜか支配をまぬかれた。偶然か必然かはさておいて、おそらくアジアでは唯一の植民地化されなかった国だろう。だからもし日本の特殊性を言うなら、文化だとか風土だとか伝統なんかではなく、きわどいところで植民地化をまぬかれたという点…… [註A]

——要するに偶然の結果だということですか。

安部 必然が意識された偶然だとすれば、やはり偶然と言ってもいいでしょう。要するにどこの国でも、植民地化の運命さえまぬかれていたら、日本と同じようなコースをたどれたかもしれないということが言いたかった。この問題に対する日本人の鈍感さはまさに西洋人なみだ。だから日本のテレビがポルトガルの大航海時代を祝う式典を中継して、ひどくロマンチックな解説をつけて、西と東の文化の交流の記念だとかなんとか一緒になって手をたたいてみせたりする。文化の交流どころか、一つ間違ったら植民地化の先兵になりかねない連中だったんだ。裸の子供のところをライオンが入ってくるようなものさ。

そして運よく食用にならずにすんだ日本という子供は、遅ればせながらローロッパ式の近代化をとげ、遅ればせながら植民地支配の仲間入りをしてしまう。ところが先輩たちにさんざんうまい汁を吸われてしまった後だったから、戦火による略奪というひどく不器用な手段にたよるしかなかった。

いわゆる発展途上国に見るべき文学がないのも、けっきょくは植民地収奪の結果だと思う。発展途上国にも文学があり、その民族のためのすぐれた文学が生まれていると主張する人もいるけど、ぼくはそう思わない。すくなくとも世界文学、あるいは現代文学という基準では、文学と言うにたる文学はない。

逆説的に言えば、だから現代文学は駄目なんだとも言える。西欧的な方法をよりどころにしているから駄目なのではなく、植民地主義の土台にぎざかれたものだから駄目なんだ。反植民地主義的な思想にもとづく作品でさえ、植民地経済を基礎にしていた国からしか生まれ得ない。メフィストフェレスなしにファウストがありえないようなものさ。(『錨なき方舟の時代』全集第27巻、159ページ下段～160ページ上段) (傍線筆者)

[註A]

アジアの中で、欧米白人種(キリスト教徒)諸国の植民地化を免れて、国家としての独立を維持したのは、日本国の他には、タイ王国だけです。アフリカ大陸についてはいふまでもありません。」

これに対して、上記の安部公房の二者択一の問ひの形式は二項対立による実にヨーロッパ哲学の伝統的・正統的な論理で、この意味では論理的な、サルトルのやうな扇情的な悪意ある偽善の問ひではない。勿論、安部公房の読者にはもはや説明不要なやうに、安部公房の回答は二者択一にあるのではなく、二者いづれをも否定して第三の道を求めるといふ超越論であることはいふまでもありません。箱を被れば智慧も湧かうといふもの

です。それ故に、同じ問ひの形式を立てる公案の禅問答の元に修業する禅宗のお坊さんは、街角にたつて、箱ではなく其の代はりに編笠を被つてゐるのであらう。とすれば、これらのお坊さんは皆箱男の一種だといふことになる。座禅とは箱男の一形態である。道元禅師は箱男であつた。

〔註3〕

三島由紀夫、川端康成、安部公房、石川淳の作家四名は、昭和42（1967）年2月28日に中国共産党の文化破壊の所業に反対する「文化大革命に関する声明」を發表しました。

「昨今の中国における文化大革命は、本質的には政治革命である。百家争鳴の時代から今日にいたる変遷の間に、時々刻々に変貌する政治権力の恣意によって学問芸術の自律性が犯されたことは、隣邦にあって文筆に携はる者として、座視するには忍ばざるものがある。

この政治革命の現象にとらはれて、芸術家としての態度決定を故意に保留するが如きは、われわれのところではない。われわれは左右いづれのイデオロギー的立場をも超えて、ここに学問芸術の自由の圧殺に抗議し、中国の学問芸術が（その古典研究をも含めて）本来の自律性を恢復するためのあらゆる努力に対して、支持を表明するものである。

われわれは、学問芸術の原理を、いかなる形態、いかなる種類の政治権力とも異範疇のものともみなすことを、ここに改めて確認し、あらゆる「文学報国」的思想、またはこれと異形同質なるいはゆる「政治と文学」理論、すなはち、学問芸術を終局的には政治権力の具とするが如き思考方法に一致して反対する。」〔翌3月1日付「東京新聞」掲載。（『三島由紀夫決定版全集36巻』新潮社、p.477）〕

『周辺飛行』論

(35)

3. 『周辺飛行』について (21)

「友達」の稽古も——周辺飛行32

「別役実の『友達』論」論も一緒に

岩田英哉

この周辺飛行は、戯曲『友達』が、1967年の初演の版を、揃へる役者の「配役の都合上、祖母を祖父に変えたていどの改訂だが、一部かなりの変更を加えたところもある」といふ改訂版に関するメモの如き冒頭説明文と其の後の改訂部分の科白の転載からなつてゐる。

前回の「周辺飛行31」は、ほほえみと家族の研究であつたから、この周辺飛行で、その後を受けての報告文であれば読者には面白いし興味深いものになつたでせうが、安部公房はやはり作劇の完成に力を集中してゐて解説めいた文章にはならず、投げ出すやうにしてシナリオを載せてゐるのみです。後は読者が解釈してくれといふわけだ。或ひは、この変更部分を以て全体を察せよといふことかも知れない。

前の段落の上記引用箇所の後半部の「一部かなりの変更を加えたところもある」といふ箇所について作者は次のやうに改訂の理由を述べてゐる。

「前の台本では、「元週刊誌記者」代表させていた外の世界との接点を、この「三男」と、「婚約者の兄」の二人に、それぞれ分担させてみることにした。一見、構造は閉鎖的になつたようにも見えるが、メビウスの輪（ひねって貼り合わせた紙の輪・裏と表の区別がない）のトリックに似た効果で、かえって外界へのひろがりも強められたように思う。つまりこの「三男」は、家族からの出口であると同時に、入り口を兼ねた存在でもあるわけだ。」

この安部公房による改訂の理由によれば、「元週刊誌記者」の役割（機能）を二つに分解して、闖入者家族の外部にゐて主人公に接続される（関係を持つ）役割が「婚約者の兄」であり（これはこれでひとつの家族をそれぞれ（主人公*〔婚約者〕・其の兄）で構成する）、「三男」は闖入者家族の内部にゐて主人公（この家族の外部にゐる）に接続される（関係を持つ）役割といつたやうに、闖入者家族の内部と外部・主人公の内部と外部が、この分解されて生まれた二人の機能（役割）によつて接続されてゐることが解ります。さうすると、翻つて見れば、「元週刊誌記者」の役割は逆に、一人で此のやうな役割であつたといふことになり、当然といへば当然のことながら、安部公房はこれを初版でも知つてゐて演技指導を役者たちに施したといふことになります。この正反対の方向をひとつにして生まれる関係が如何なるものかを、作者は初版のト書きに「元週刊誌記者」の登場場面で次のやうに書いてゐます。これが二人で演じられる関係の姿の全体の形象（イメージ）です。

「（暗黒の中から、異様な形相の男の顔が、浮かび上がる。左右のバランスが欠けた、狂気を感じさせる顔。女の依頼でやってきた、元週刊誌の記者である。〔ただし、この顔は、照明の変化によって、極端に柔和な表情にも変りうる〕）」

この、初版では「元週刊誌記者」の登場する場所、改訂版では「三男」と「婚約者の兄」の登場する場所が、安部公房らしいことに、『燃えつきた地図』で依頼人の女の弟らしき男の姿を現す駐車場、また『カンガルー・ノート』では「満願駐車場」と呼ばれる駐車場に当たる母屋に対して二義的な即ちtopologicalな副次的な場所である公園になつてゐて、前二者の小説では此処が存在へのメビウスの環として出入り口となつてゐたやうに、この戯曲でも公園が上位接続の場所、即ち時間と空間といふ一見正反対の方向と力が交差する存在の場所になつてゐます。それ故に、上記初版の「元週刊誌記者」の男の姿形であり、形象（イメージ）であつたといふことなのです。

この公園が第一幕と第二幕の接続部で、配置としては第二幕の冒頭に置かれてゐる。

「シャーマン安部公房の秘儀の式次第」によれば、存在の出現には、その直前に主人公は皆意識を失ひ、自己喪失の状態になつて、それまでの記憶も喪失するわけですから、第一幕の最後では次のやうに、これも、なつてゐる。主人公を残して、舞台が暗転します。

「（次女が、手だけのぼして、部屋のスイッチをひねる。男だけを、スポットで残して、舞台暗くなる。

次男が、しのび足で現れ、部屋を台所の方へ横切りながら）
次男（小声で）ビール。

——ゆっくりと幕」

最後に主人公の男を殺すのは、この舞台を暗転させるスイッチを再度第二幕の終わりに切る次女である。そして、第二幕の最後のト書きは次のやうに第一幕の終わりと対応して一つの形をなしてゐます。父親が超越論に依つて「いつの間にか」「どこからともなく」配達されて既に其処に存在してゐた「明日の新聞」を読み上げた後に擬似家族全員に「みんな、忘れ物はないかね？」と声を掛けると、

「（ゆっくり幕が降り始める。その途中で、照明が消え、家族たちの笑いだけが、闇の中にくっきりと浮かんで残る）

——幕 [1974.5.17] 」

かくして、笑いの研究と家族の研究は完成をみたといふわけです。

ここまで「周辺飛行」読んで来ると、1970年代の安部公房スタジオ以外の他の劇団

が、この戯曲を十分に理解をして舞台に載せることは非常に難しいと率直に感じます。まづ演出家が「シャーマン安部公房の秘儀の式次第」といふ存在に関わる様式を知らない。それに存在といふ言葉は知つていても、この概念が安部公房の世界で一体何であるのかを理解することができない。いや、これらを理解しなくとも、演出はできるといふ考へも勿論あるでせうし、私もそれは強くは否定しませんが、その意見を肯定するには積極的になることができない。では、一体演出家がどこまで戯曲『友達』に肉薄できるのか、その格好の例がありますので、これを論じて、この周辺飛行のまとめとしたい。その例とは、別役実の『友達』論である『演劇における言語機能について 安部公房〈友達〉より』（別役実著『言葉への戦術 別役実評論集』所収）です。

安部公房と別役実の違いを、後者の言葉を読んで整理することで二人の演劇観・舞台観の違いを私たちは理解することができるといふ利点が、この評論といふには余りに精細に一段一段を分析した批評にはありますし、私たち安部公房の読者が別な視点で安部公房の演劇を知るためにも役に立つ、これは『友達』論です。以下の文章は、そのまま自然に、安部公房論になり、別役実論になります。二人の骨格だけを示したい。安部公房の箱根の山荘にあつたイギリス製の紙の等身大の人骨模型、山口果林の名付けたボーニーちゃんのやうに。

後者即ち別役実の演劇観は、冒頭に宣言されてゐる。それは次のやうなものです。

「現在演劇は、従来の新劇がそうであつた様な、文学の演劇的展開に過ぎないものから、次第に演劇的直接性を開拓しつつある」と私は或るアンケートに答えて書いた事がある。」

この後の文章を読んで、この引用のいふところを説明しますと、別役の云ふ「演劇的直接性」とは、文学から独立した演劇独自の空間、ベケットならば舞台が「ベケット空間」と此の戯曲家が呼んでゐる演劇空間になる事、これを演劇的直接性と呼んでゐるので

す。

それでは、文学とは何かといひますと、別役実はこの『友達』論の題名に「言語機能」と書いてゐるやうに言語についても、演劇との関係で十分に理解をしてゐて、この演劇直接性を語つてゐるのです。しかし、別役実が小説を書いたことがない。安部公房は小説家でもあり戯曲家でもある。ここに別役実の『友達』理解の限界と制約があります。限界といひ制約と云つても悪口を言つてゐるのではない。私のいひたいことは、安部公房が範疇横断的にあるひとつの存在論に依る様式（style・スタイル）即ち私の云ふ

「シャーマン安部公房の秘儀の式次第」を戯曲にも適用してゐるといふこと（「鱧魚（「箱男」より一周辺飛行25」を参照）、安部公房の読者の人口に膾炙した用語を使へば、ジャンル横断の作家であるといふこと、この理解を欠いてゐることから来る限界

と制約であつて、別役実の『友達』論を通じての安部公房作劇に関する理解が間違つてゐるわけではなく、むしろ別役実の演劇観からみれば、それはさうであらうと思ふ演劇論になつてゐます。この戯曲家であり演出家である作家は、項目を分けて整理すると次のやうに主張してゐます。

1. 演劇的直接性（同書91ページ～92ページ）

これは、文学的要素を排除して、小説の解釈などから生まれるやうな又は小説の解釈でなくとも同類同質の現実解釈や脚本解釈から生まれる解釈を文学的と呼び、この要素を徹底的に排除して、そのやうな文学性（別役にとっては小説にほとんど同義です）から独立して、演劇的要素のみで舞台上で演劇の全体を創造することを言つてゐる。

そして、別役は当然のことながら、このやうな演劇観ですので、「安部公房作の「友達」をテキストとして取り上げたのは外でもない、一読してそこに文学性と演劇性の奇妙な混合を見たからである。」と云ふのは、確かに此の観点から見れば事実には違ひない。

しかし、これも既述の通り、安部公房の舞台は総合藝術であつて、演技、言葉、音楽その他舞台上での全ての要素の一つ一つが独立してゐて且つ相互に親和性豊かに調和し、且つ客席と自然に偶然に一体となつて都度舞台と役者の間に動態的な関係を創造し、それが丁度S・カルマ氏が現実を胸の陰圧によつて体の中に吸ひ込むやうにして舞台の効果を自己のものとなすことですから、同じ感動と云ふ言葉を使つてゐても、安部公房の求める感動と別役実の求める感動とは下記2に述べるやうに異なる、または正反対なのです。

安部公房は自分の演劇を言葉でも文字でもバロックであるとは言つてゐませんが、バッハの音楽を舞台の最初に導入して、これによつて舞台に期待することの実現の喜びを純粹音楽とまで言つて褒めてゐますので、バロックの舞台だと云ふことができるのに対して、別役実の舞台は、それらの諸要素は雑音だといつて演劇的空間の創造を演劇的要素、即ち言葉と演技との関係だけに絞り込んで、次のやうに言ひます。

2. 舞台藝術の観客に与へる効果

ベケットの舞台『ゴドーを待ちながら』を論じながら、別役実は自分の求める舞台を次のやうに語つてゐる。ベケットは、安部公房も好きな作家ですから、二人はベケットを共有してゐるのです。しかし、其処に読みとつた理解が正反対であると云ふことなのです。別役のベケット理解は次のやうなものであり、これは自身の演劇観と理解することができます。

「我々は、ウラジミールとエストラゴンの、一見何でもない会話に接しながら、極端に云えば、人間が言語機能を有すると云う事自体への、もしくは、人間が演劇をすると云

う事自体への、生物学的驚異をさえ感ずる事が出来る。それはその「演劇」が、あらかじめ仕組まれた「文学」的世界、「文学」的ルールにもとづいて観客を誘導するものではなく、現前の舞台空間の直接的な解明の作業であり、舞台と観客が「演劇」と云う約束事を通じて行う相互交換ではなく、真空状態における実存と実存の触れ合いをたくらんでいるからである。ここでの演劇的感動は、だから同時に、自分が演劇に接していると云う自覚にもとづく感動なのであり、「参加の演劇」と云う意味の本質は、ここにあると、私は考えるのである。」（同書95ページ）

この箇所を読むと、安部公房との違いは次のやうにあり、これが其のまま安部公房から見た別役実作劇・舞台藝術論との違いになります。

（1）別役実の云ふ「演劇」（所謂演劇）

別役の云ふ演劇とは、演劇以外のもので所謂演劇といはれるものの「ルール」と云ふ約束事（これが文学的と云ふ言葉の意味）によらない劇（ドラマ）である。

これに対して安部公房の演劇とは、ジャンル横断を可能にする（それ故に汎神論的と呼ばれ得る）存在論の様式に従つて、総合藝術として（別役実の云ふ）演劇以外の要素も取り入れて、それらが独自に独立して舞台上で働きながら総体としては動態的均衡の、均衡した動態性の、何故なら即ちこれが現実と云ふものであるから其の創造を舞台上でする事、これが演劇であると云ふものである。

以上のことから、

別役実の演劇は「舞台と観客が「演劇」と云う約束事を通じて行う相互交換ではなく」、「真空状態における実存と実存の触れ合い」なのであり、決して「舞台と観客が「演劇」と云う約束事を通じて行う相互交換ではな」いのである。即ち、この劇作家の求める舞台は「真空状態における実存と実存の触れ合いをたくらんでいる」舞台なのである。舞台の上で役者が言葉と身体の実存で演劇することによつて、舞台と観客が其の劇場空間を真空状態にして、真つさらな何もない場所にして、其処で交換ではなく（観客と舞台の相互交換、即ち観客の感動ではなく）、個人もまた実存として独立性を保つた個人として相互に（交換ではなく）触れ合ひを創造する場所であるのです。実存とは、これも多々既述の通り、一般概念として云へば、時間の中に存在する人間個人としての存在、即ち現存在としてある存在のことです。別役実がこれを個別にどのやうに理解をしてみやうがらまいが、さうですので、私たちは此の理解で此の『友達』論を読んで一向に差し支へがない。

修辞学でいふと、安部公房は直喩（シミリ）の作家ですから、「何々のやうに」といふ修辞を多用することで明らかなやうに何かに対するに贗物が幾つも複製されて

topological (位相幾何学的) に登場するのに対して、別役実の方は、これは「触れ合い」といふのであれば交差とか交接とか、即ち三島由紀夫の世界で多用される隠喩 (メタファ) でもないので、これは換喩 (メトニミー) の世界での演劇です。同じ換喩の作家に、安部公房に關係して私の知つてゐる過去に論じた作家を挙げれば、花田清輝と村上春樹がゐます。今ネットで『病氣』といふ劇を見ると、その科白は確かに換喩になつてゐる。場面設定も、従ひ次のやうな「触れ合い」だけの科白になつてゐて、交差・共有といふことのない換喩關係の關係を途切れ途切れの、意味の交流のない科白で表現することになるのです。男が其処にゐる事の目的設定も其の病室といふ空間目的との一致はなく、従ひ看護婦との「触れ合い」即ち「擦れ」違ひ、しかないのです。 (<https://www.youtube.com/watch?v=admNdYG7glQ>)

看護婦：一寸、あんた。

病氣ではないのに何故か病室にゐる男：え？何ですか？

看護婦：あなた、病氣ぢやありません？

男：私が？いや (と尻上がり氣味に)

看護婦：さう (と疑ひ氣味に)。それならいいんです。

男：(声にならぬ声を出してから) でも、それならどうして私のことを病氣だなんて言つたんです？

確かに、見てゐても笑ひが生まれてきますが、しかし、それは換喩の笑ひであつて、直喩の、安部公房の笑ひとは異質の笑ひです。なぜなら、「従つて、ここでの演劇的感動は、だから同時に、自分が演劇に接していると云う自覚にもとづく感動なのであり、「参加の演劇」と云う意味の本質は、ここにある」からです。演劇に参加しても、観客と舞台との「文学的な」(と別役はいふのでせう) 相互交換の意思疎通はないのですし、そのやうな「感動」もないのです。しかし、笑ひは生み出す。

この演劇観は、安部公房とは正反対のもので、『友達』の科白の一部を任意に引用して比較をすれば一層違ひが良く解ります。

「次女 ぜいたくは言いつこなしよ。遊びに来たわけじゃないんだから。

男 (混乱と不安で、奥のドアの前に立ちはだかり) 早く、出て行け！さもないと、家宅不法侵入罪え訴えてやるぞ！

末娘 (大げさに) こわいわ、この小父ちゃん。

母 (さとすように) こわがらなくてもいいのよ。本当は、とてもやさしい小父ちゃん。ほら、よく顔を見てごらんささい。ちよつとこわいよふりをしているだけなのよ。」

(全集第25巻、50ページ下段)

この引用の例にならつて、上記別役実の『病室』の冒頭を安部公房流に書き換へると次のやうになります。

(2) 安部公房の演劇

看護婦：一寸、あなた。静かにして下さいよ。

病氣らしいもの（直喩）に罹つて病室にゐる男：でも、急患なんです。

看護婦：受付のときに申し出てください。高熱や激痛があれば、予約の順番を変更しますから……

男：熱があるわけでも、痛むわけでもないけど、でも奇病なんです。

（看護婦返事がない。しばらくして、男の催促を制して [NO1] とプリントされたプラスチックのカードを滑らせてよこす。）

看護婦：予約の患者さんが済んだら、最初。そうね、十一時ころに出直してくるといいんじゃないかな」

男：だって、急患は申し出るようにって書いてあるじゃないの」

毎度お馴染みの『カンガルー・ノート』の最初の病室での超越論による会話、時間も空間もズレた会話、遅延（予約時間と診察時間のズレ）と隙間（予約の有無と予約の順番のズレ）を問ひ、差異を設ける（「触れ合」ふのではない、別役と正反対の方向で全然「触れ合」はない行き違つた）会話です。この差異を埋め、主人公が存在自体になるための存在への片道切符が「[NO1] とプリントされたプラスチックのカード」

であることは既に『カンガルー・ノート』論「5. 1. 1 存在と存在の方向への標識板と超越論の関係」で詳述した通り（もぐら通信第66号）。

直喩は、「何々のやうに」ですから、本物と贋物の間の距離を（ここに笑ひを生みながら）接続して両方が用ひられる譬喩（ひゆ）の中で一体となるかの如くの会話のやりとりになります。此の関係を、そのまま論理を敷衍して舞台上の演劇と観客の効果の共有と考へてくださると、安部公房のニュートラルといふ言葉の意味も、また譬喩（ひゆ）といふ本来は小説の文体に深く関はる方面からのジャンル横断の理解も出来て一石二鳥です。

3. 言語機能

ベケットの舞台を「ベケット空間」と別役実と呼んでゐる。ですから、この作家の舞台空間を「別役空間」と呼ぶことができます。これが其のまま、別役のベケット理解です。

「更に、ベケット空間にあつては、その言語機能と同様、役者の肉体に対する配慮にも注目しなければならない。演劇における「文学」性の否定と云う事は、その究極の構図に、役者の肉体を一種の物量として、もしくは一個のエネルギーに過ぎないものとして把えがちである。しかしベケットは言語を限りなく音量化すべく試みながらパラドキシカルにその最終的な言語性をすくいとっている様に、役者の肉体をも、限りなく物量化しようとする悪意の果てに、パラドクスとしての「役者」を救済してゐるのである。」

（同書95ページ）

これが、別役実の言語と役者、そして言葉と肉体の関係に関する考へ方です。掬いとるとか、救済すると云ふもの言ひ方が理解するのに難しい。しかし、言ひたいことは、言葉の発声にも身体動作にも現れざるを得ないパラドクス（背理）を解決することを、これらの二語で言ひたいと云ふことは解ります。と云ふことは、この作家は、舞台の上で役者が演技をすると、言葉と演技は分離せざるを得ないと考へてみて、それを解決する演劇観または演技観が、実存と実存の「触れ合い」と云ふことだと理解することができます。そして、この分裂は、演劇的以外の要素、その最たるものは文学ですが、これを徹底的に排除することで解決に至るのだ。と云ふのが、別役実の考へだと云ふこともまた解ります。

これに対して、安部公房の演技論は、読者周知の通りニュートラルといふ概念を中核とするものですから、あれとこれの役者の外部の正反対の条件が演技を構成する要素の排除によつて一つになるといふものではなく、逆に役者自身があればとこれといふ正反対の間を自由闊達に往来して（例：時間と空間といふ抽象概念から、相手役者の具体的な性格と役柄に至るまでの階層がある）、演技することの出来るニュートラルな状態の維持と継続、それも心理的な演技ではなく（これを別役実も「従来の新劇がそうであつた様な、文学の演劇的展開に過ぎないもの」と論の冒頭に呼んでみて此処は二人は一致してゐる）、生理的な演技ですから、ここでも役者に実存（現存在）であることを求める別役と、役者に身体的な生理に徹して存在であることを求める安部公房とでは、方向としては役者に求めるものが正反対です。それでは、観客に対してはどうかといへば、別役はやはり観客に実存（現存在）であることを求め、対して安部公房は、舞台の存在を自分の胸の中に吸ひ込んでもらひ、役者が終演後もニュートラル習得維持の訓練に励むが如く、観客にも劇場を退出後も日常の時間の中で存在であり続けることを願つて作劇してゐるといふことになります。このやうに考へて来ると、別役は「別役空間」といふ劇場空間の中では、顧客一人一人に実存であることを求めますが、劇場の外に出て日常生活の中で此れを求めることはしてゐないのです。見方を変へると、それほど劇場と演劇は別役実にとっては大切な場所であつた。勿論、安部公房と正反対の意味に於いて、しかし双方共にとつて、そのやうに。

4. 演劇の性格

別役実は、戯曲『友達』を「こんなレッテルを貼る事自体は無意味であるが」と云ひながら続けて、『友達』は「一見いわゆる「不条理劇」と云えそうである。」といふ（同書96ページ）。そして、別役による不条理劇の理解とは、ベケットを念頭に置きながら「日常的状況と極限的状況が並存する中に舞台空間の（つまり役者の）実存を垣間見ると云ふ手法であり（[引用者]とここまで考察を進めて来ると、私の別役実の演劇観は間違つてゐないことが判る）、作家の体質によって、ヨネスコ風に日常的状況を恰も極限状況の如く展開したり、ベケット風に極限的状況を恰も日常的状況の如くに展開したりする。要はその演劇的な表情ではなく、日常的なもしくは極限的な夫々のフォルムが、空間として物質として如何にして安定しているかと云う事であり、その時、その相

互性の中にドラマの本質が機能するのである。」（同書96ページ）

此处ではイヨネスコとベケットを、両極端を夫々正反対の方向に作劇する作家として比較対照させてみます。別役実が自分のものとしたか、または自分の演技観と同じだと考へてゐるのが、最後の一行「要はその演劇的な表情ではなく、日常的なもしくは極限的な夫々のフォルムが、空間として物質として如何にして安定しているかと云う事であり、その時、その相互性の中にドラマの本質が機能するのである。」といふ所でありませう。

この場合の「ドラマの本質が機能する」といふ場合のドラマの意味が、もし劇的であり最後にヒーロー（英雄）たる主人公の喜劇か悲劇かを問はずに、いずれにせよ劇的に終焉を迎えるのであれば、これは、ドナルド・キーンさんとの対談『反劇的人間』の題名の示し対談の中でイタリアのオペラを巡つて意見の対立してゐる通りに、安部公房は、キーンさんとは正反対に、オペラのやうな大声を張り上げ、誇張した身振り手振りの劇的な芝居は最も苦手とする所ですし、安部公房の劇の終はり方はいつもアンチ・クライマックスで終はる。最悪といふべきか、否、最善といふべきでありませうが、小説の結末の示す通り、最善の場合には主人公の悲劇・的ならぬ、クライマックスの欠落した非・劇的な死で終はります。二人の劇は、通俗的には不条理劇と多分いはれたので当時ありませうし、見かけは同じやうに見えたのかも知れません。

最後にもう一つ別役実の言葉で、それも不条理劇を巡る発言を引用して、この周辺飛行を終はりにします。

「従来の演劇においては、ドラマに関する主動的な要素は形象が代表してそれを把握していたのであるが、不条理劇にあつては、そのフォルムが代表するのである。「形象演劇」ではなく「状況演劇」であると云うのはそのためだ。」（同書96ページ）

別役は、此の引用の後で、安部公房の『友達』には、このフォルムがないと難じてゐるので、このフォルムとは上記の換喩的な関係の創造といふことを、役者の発声（言葉）と身体動作（狭義の演技）について言つてゐるのです。その意味では、当然安部公房の役者の発声も演技も、別役のいふフォルムはないといふことになつてしまふのは致し方がない。此处は、どこまで行つても議論が収斂することはありません。

さて、とすると、このフォルムのない演劇を上では「形象演劇」と呼んでゐることが判ります。これに対して自分の演劇は、独自に思ふ其のフォルムのある「状況演劇」であるといふことになります。と云ふことは、この劇作家は、劇場の外部での日常的な現実といふものが、極端な非日常的な事件であれ、普段の生活の中の事件であれ、この両極端の間に（これら極端も含めて）「別役空間」に創造すれば（換喩的演劇によつて）、それは現実の反映となるか、最も成功した場合には現実のミニチュアといふべき舞台が

完璧に舞台の上で誕生すると考へてゐることになります。

しかし、他方、安部公房は小説でも舞台でも形象（イメージ）を大切にした作家であることを私たちは、リルケとの関係で初期安部公房以来、よく知つてをります。ですから、此処でも別役の言葉は安部公房とは交差することなく、換喩関係のまま擦れ違つて、相反的に「触れ合」つて、分かれる以外にはないのです。

その典型的な例を、別役は『友達』の前に観た『鞆』の鞆を役者が演じてゐて、実物の鞆を使はなかつたといふことに求め、言ふ順序は前後してゐますが、『鞆』では「不条理劇」としての演劇性（[引用者]別役の云ふ「形象演劇」性）がこと如く裏切られてゆく例として挙げてゐます。

別役実の不条理劇は、鞆が鞆である事実が、両極端の存在する状況の中で鞆以外の（しかし純粹に）演劇的な要素と「触れ合」つて「舞台上におかれた本物のカバンが、その妻が感ずると同様、観客にとって不気味でなければならない」（といふ「これが演劇的直接性である」といふ効果を持つた（劇場の外部と同じ現実を反映させた）「状況演劇」となり、「良人の云う「このカバンは私の祖先だ」と云う言葉が、強烈な衝撃力となり、その言語機能は、いわゆる「文学」的な言語機能を超えるのである」（これで具体的に別役実の狙ふ言語機能の効果が判るでせう）が、対して、安部公房の不条理劇は、鞆が人間のやうに（やうにですから実は人間は贗鞆である）、そして名前は鞆だが、しかし今度は逆に（ものに実体があるとすれば）鞆は鞆ではなく人間である即ち鞆は贗人間であるといふ等価交換の、いつもの安部公房のトポロジーの世界の差異を設けた超越論的な「形象演劇」になるのだ。

といふ理解が、別役実の『友達』論の御蔭で、同氏には同氏の理論上の制約と制限のためにできませんが、私たち安部公房の読者にはできるといふ結論を、以上引き出すことに至つたので、此処で「周辺飛行32」を終はりとします。

以上を理解してゐれば、別役実の『友達』論の詳細を極めた段落と科白毎の批評の言葉を、何故どんな根拠で意見を言つてゐるのかを理解することができるでせう。この別役実の『友達』論は全く悪意はなく、実に真剣な議論ですので、私たち安部公房の読者としては、安部公房の戯曲の科白を細部に亘つて理解するためにも、敬意を表すべき『友達』論です。

別役実を今回論じたので、この連載の中でもし機会があれば、またもし無ければ稿を別に立てて、かねてより巽孝之氏に示唆を載いてゐる、安部公房と寺山修司の関係を、もし私に其の力があれば論じたい。

二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック

(7)

Part I 塔の文学

目次

Part I 塔の文学

1. 森鷗外の塔と夏目漱石の塔
2. 江藤淳の塔と三島由紀夫の塔
3. 三島由紀夫の塔と安部公房の塔
4. 安部公房の塔と埴谷雄高の塔
5. 小林秀雄の塔と安部公房の塔
6. 安部公房の塔と大江健三郎の塔
7. 安部公房の塔と倉橋由美子の塔
8. 夏目漱石の塔 (F+f) と安部公房の塔 $\neg(F \times f)$

Part II 『文章読本』論

5. 小林秀雄の塔と安部公房の塔

この二人の共有する塔の名前は「故郷喪失の塔」です。

これは双方の読者にとって驚きでせう。何しろ安部公房は「ぼくはその小林秀雄ってのを、一度も読んだことがないんです」と言つてゐるし（『共同幻想を否定する文学』（1972年1月1日）全集第23巻、293ページ上段：古林尚との対談）、小林秀雄は小林秀雄で安部公房を批評したことなど一度ないからです。お互ひにお互ひの文章を読んだことがない二人である。さて、その上で、それにも拘らず、それ故に、次のやうに始めたい。

小林秀雄は昭和8年（1933年）5月に『故郷を失つた文学』といふ文章を雑誌「文藝春秋」に寄せてゐる。冒頭に小林秀雄は次の谷崎潤一郎による発言を引用して「故郷を失つた文学」の枕としてゐるのです。即ち、「故郷を失つた文学」と谷崎の純文学・読者年齢狭隘論（これは此のまま文壇狭隘論・文壇偏頗論となつてゐる）と今私が要約して名付ける谷崎の論とは、小林秀雄の中では一つに連携したものだといふことです。これは、安部公房の場合も同様ではないのだろうか。安部公房の読者であるあなたは、歳をとつたあなたが若い時と同様に安部公房を読むであらうか？と自問自答してみれば良いのだ。さう思ひながら、谷崎の言葉を読んでみて下さい。あなたが此の自問自答に肯定で答るならば、あなたは谷崎の読者足り得るといふことになります。これは此のまま変はず、昭和8年以来二十一世紀の今に至るまで、安部公房の文学の問題であり、小林秀雄の文学の問題である。

「現代の日本には大人の読む文学、或は老人の読む文学と云ふものが殆どないと云つてよい。日本の政治家は概して文藝の素養に乏しく、文壇の情勢に暗いと云ふ誹（そし）りを受けるが、それは文壇の方にも幾分の罪がありはしないか。といふのは、彼等と雖（いへ

ど)も必ずしも文藝に冷淡なのではない、(中略)ただ彼らの嗜(たしな)むものは多く漢文学、でなければ日本の古典類であつて、毫も現代の文学に及ばない。日本の現代文学、一殊に所謂(いはゆる)純文学を読むのは十八九から三十前後に至る間の文学青年共であつて、極端に云へば作家もしくは作家志望の人たちのみである。(中略)文壇と云ふものが全く若い者相手の特別な世界であることは、自然主義の昔から今日に至る迄変りがない。政治組織や社会状態に関心を持つてゐる筈のプロ作家と雖も、一たび『文士』として『文壇』の仲間入りをして、『月評』に取り上げられるやうになると、彼等の読者は純文学のそれとあまり違はない狭い範囲に限られてしまひ、広く天下の労働者や農民をファンに持つと云ふ人はめつたにない。これは日本の藝術のうちで、文学だけが特にさう云ふセセコマシイ天地に跼蹐(きょくせき)してゐるのであつて、演劇は勿論のこと、音楽や絵画などでも、ずつと広汎な愛好者を持つてゐることは人のよく知る通りである。但し、大衆文学だけは文壇の月評から疎外されてゐる代りに、却つて社会の各方面に読者層を有するらしいが、此れとても恐らくファンの大部分は三十歳ぐらゐ迄の男女であらう。(中略)私のやうに五十近くにもなつて、自分の書くものが若い人たちだけにしか読んで貰へないかと思ふと、淋しい気持ちがないでもない。又、自分を読者の側に置いてみて、古典より外に読むに堪へるものがないと云ふことは、何かしら現代の文学に欠陥があるやうに思へてならない。なぜなら、青年期から老年期に至るまで、ときどき灯下に繙(ひもと)いて慰安を求め、一生の伴侶として飽きないやうな書物こそ、真の文学と云へるからである」そして、次のやうに続ける。この時小林秀雄は、1902年(明治35年)生まれなので、数へ歳で31歳、確かに若く、五十歳に近い谷崎の批評を読んで「考へ込む」のである。

「谷崎潤一郎氏の「藝について」(「改造」四月号)を読んでみて右のやうな文章にぶつかり、考へ込んで了(しま)つた。氏に抗言するつもりで考へ込んだわけでもなし、別に名案を思ひ着かうと思案したわけでもない。ただ氏の所謂「セセコマシイ天地に跼蹐」する一人として藝もなく考へ込んで了(しま)ひ、重苦しい気持ちになつた。」

何故小林秀雄が「藝もなく考へ込んで了(しま)ひ、重苦しい気持ちになつた」かと云ふと、谷崎の此の文章が立派な批評になつてゐるからです。私は谷崎の上記文藝批評・文学批評を読んで、徒然草の第13段を思ひ出した。

「ひとり燈火(ともしび)のもとに文(ふみ)をひろげて、見ぬ世の人を友とするぞ、こよなう慰むわぎなる。文は、文選のあはれなる巻々、白氏の文集(もんじふ)、老子のことは、南華の篇。此の國の博士どもの書ける物も、いにしへのは、あはれなる事多かり。」

文選、白氏文集、老子、南華の篇を読んでゐなくとも、兼好法師が何を言つてゐるかは解る。この鎌倉時代を生きた批評家の全二四二段を読んで、小林秀雄は『徒然草』と云ふ、これも批評文を書いてゐる。さて、この時、小林秀雄は、昭和17年(1942年)なので四十歳。「セセコマシイ天地に跼蹐」する吾を振り返りて「藝もなく考へ込んで了(しま)ひ、重苦しい気持ちになつ」てから八年が経つてゐる。昔の人は、男は四十になつたら自分の顔に責任を

持たねばならないと云つた歳である。そして、八年後に、この批評家は、谷崎の云ふ大人が読むに足る文学、人生で様々な経験を経たが故に年老いても尚読むに足る文学を残した兼好法師の此の有名な随筆の冒頭に云ふ「徒然なる儘に、日ぐらし」の心（精神と言つてもよい）を、その人間の成熟として次のやうに解いてゐる。

「徒然わぶる人は、如何なる心ならむ。紛るゝ方無く、唯独り在るのみこそよけれ」兼好にとつて徒然とは「紛るゝ方無く、唯独り在る」幸福並びに不幸を言ふのである。「徒然わぶる人」は徒然を知らない、やがて何かで紛れるだらうから。やがて「惑の上に酔ひ、酔ひの上に夢をなす」だらうから。（中略）「今やうは無下に卑しくこそなりゆくめれ」（中略）「人皆生を楽しまざるは、死を恐れざるが故なり」といふ人が厭世観などを信用してゐる筈がない。」

「セセコマシイ天地に跼蹐」する吾のみる文壇と云ふものは、同じ此の批評家が先の「戦後、文壇といふものが崩壊して、文士といふ民主的職人が、氾濫するに至つた」時期まであつたが（『読者』昭和34年（1959年）9月。57歳）、小林秀雄の文壇批評もまた鋭利でありますから、この言は正しいとして先を考へると、今から既に遠く此の文壇は消滅してゐる。谷崎のいふ大人の読むに堪へる小説は、「セセコマシイ天地に跼蹐」する文壇のあつた当時には、なかつた。これに対して、今我々が問ふべきは、それでは文壇の消滅した現在、大人の読むに堪へる小説があるのか、もう少し範囲を広げて、大人の読むに堪へる文藝作品があるのか、それを生み出すための力のある「セセコマシイ天地に跼蹐」しない場所があるのか、「紛るゝ方無く、唯独り在る」幸福並びに不幸を味はふことのできる徒然なる人のための文学があるのか、その場所があるのか、と云ふ問ひでありませう。

これはどこか此の論の最後の方の章で述べますが、この鎌倉時代の批評家の云ふ書物を独り読む愉楽といふものは、このまま近代のヨーロッパの文明論の視点で私が知るに至つた都市の構造に即して、特に18世紀の彼らが（キリスト教の暗愚に対して）啓蒙時代と呼んだ時代以来その資本主義を輸入した国々に広まつた、16世紀のグーテンベルクの印刷術の発明以来の出版物の流布の仕組みの上に乗つて資本主義の広まりと共に、個人のものとなつた愉楽です。日本は、その中の国の一つであつた。さうして明治の文学が生まれ、同じ18世紀江戸時代の上田秋成と本居宣長から始まつて、時代を跨いで明治時代の漱石と鴎外を二つの柱にして、これまで論じて来た「塔の文学」として今日に至る。この「塔の文学」論は、別途同時に並行して論じてゐる「糞尿と性愛の文学」論と好一對の合せ鏡に、当初意図してゐたことは別々であつたにも拘らず、結果として、なつてゐます。

さて、以上のやうな個人の成熟と読書の話的前提に、小林秀雄は故郷喪失の文学の実態又は実際と此の前提の関係を次のやうに述べてゐます。

「私は人から江戸つ見だといはれるごとにもいつも苦笑ひする。何故かといふと、さういふ人

が江戸つ児といふ言葉で言ひ度い処と、私が理解してゐる江戸つ児といふ言葉との間にあまり開きがありすぎるからだ。東京に生まれた私ぐらゐの歳頃の大多数の人々は、私ぐらゐの歳頃に東京に生まれたといふ事がどのくらゐ奇つ怪なことかよく知つてゐる。それは到底江戸つ児などといふ言葉で言ひ表せるものではない。(略)言つてみれば東京に生まれながら東京に生まれたといふ事がどうしても合点出来ない、又言つてみれば自分には故郷といふものがない、といふやうな一種不安な感情である。この感情には、ロマンティックな要素は微塵もない、といふ事は容易に解つて貰へさうに思はれるが、それと同時に、この感情には、ほんたうにリアリスティックな要素も少しもない、といふ事はさう容易に解つて貰へさうにも思はれない。」

この引用と其の先の滝井孝作と京都の帰途同道してゐる列車の中で車窓からある瞬間に見えた景色が此の作家の故郷を強く思ひ出させて感動してゐる様を見て、小林秀雄は次のやうに続ける。今ここで先走つて要約すれば、小林秀雄の故郷とは思ひ出なのであり、「思ひ出のないない処に故郷はない。」そして、このやうな故郷があれば、その人には成熟が訪れ、立派な大人になる事ができるが、上記の通り東京生まれで東京育ちの自分には其のやうな場所はなく、従ひ、東京はそもそも其処で生まれ育つた人間にも田舎から出てきた人間にとつても人間の成熟する場所ではない。と、さう言つてゐるのです。それを、滝井孝作と比べて「自分には第一の故郷も、第二の故郷も、いやそもそも故郷といふ意味がわからぬと深く感じたのだ。思ひ出のない処に故郷はない。確乎たる環境が齎(もたら)す確乎たる印象の数々が、つもりつもつて作り上げた強い思ひ出を持つた人でなければ、故郷といふ言葉の孕(はら)む健康な感動はわからないのであらう。」と述べてゐる。「確乎たる環境」がないので、「確乎たる事物に即して後年の強い思ひ出の内容をはぐくむ暇がなかつたと言へる。思ひ出はあるが現実的な内容がない。殆ど架空の味ひさへ感ずるのである。」

しかし、この「確乎たる環境」の無さといふものは、決して東京と云ふ都市の変化の激しさのせいなのではなく、「振り返つてみると、私の心のなぞは年少の頃から、物事の限りない雑多と早すぎる変化のうちにいぢめられて来たので、確乎たる事物に即して後年の強い思ひ出の内容をはぐくむ暇がなかつた」といふのです。この「雑多と早すぎる変化」が一体どのやうなものであつたかは、その代表的な例として思へば、小林秀雄の極く傍にゐた河上徹太郎が『友情と人嫌ひ』といふ、中原中也も小林秀雄が中也から奪いとつた長谷川泰子も一緒に河上徹太郎の「書齋に闖入して来た」青春の思ひ出を書いてゐて、これに当時小林秀雄が同人誌に発表した複数の小説への批評も加へてあつて詳しい。それが東京といふ都市であり都会であると、私たちは、小林秀雄を一つの東京に育つた人間の典型的な例として、さう考へる事ができるし、田舎から上京して来て東京に住む事になつた人間たちのこととして考へる事ができる。後者と前者の違いは、後者には故郷があり、前者には故郷がないといふ事である。そして前者の、このやうな人間の文学が批評といふ散文、実は裏側に詩魂を隠し持つた優れて精確な批評を産んだ。河上徹太郎と小林秀雄の違いは、前者には故郷があり、後者には故郷がなかつたといふことです。

このやうな明治維新以降の近代と通称される日本の中で生きる若者はやはり塔を求めたことは不思議である。この場合、塔とは、山であり、山とは塔の異名である。小林秀雄は山に登る事が好きであつた。鎌倉の八幡宮の裏手にある小高い山の上に居を構へてみて、そこに即決した理由は眺めがよく、相模湾の海が遠くに見えるからであつた。志賀直哉の『暗夜行路』の主人公時任謙作は鳥取県の大山に登つて父親を巡る複雑な問題の解決を心理的にも感情的にも図る事ができたが、小林秀雄の場合には、さう単純ではなかつた。小林秀雄の問題は自然の中で解決の出来ぬ問題であつた。故郷喪失の精神と登山について、次のやうに書いてゐる。山に登つて美しい景色を見ることは、少しも人生上の問題の解決を図ることにはならない。かういふところは、不思議なことに、砂漠といふ平面を歩きながら何処にも平安の場所のない安部公房の主人公たちとよく似てゐる。故郷喪失の精神とはかういふものなのであらう。小林秀雄は山に登りながら、登るのではなく、谷を求めて降りて行くのである。これは穿つた見方だとは思はないが、死を求めて下降するのだと、安部公房の読者である私には見える。安部公房の18歳の時の論文『問題下降に依る肯定の批判』では此れを「問題下降」と呼んだ。そして此れは其の儘この作家の終生の方法であつた。三島由紀夫との対談『二十世紀の文学』では此れをメトデーとドイツ語で、三島の問いに答へてゐる。安部公房の表通りに立ち並ぶ傑作の主人公はみな例外なく最後に「恰も死ぬかのやうに」失踪し、消失し、みなくなるのは、普通に考へれば死ぬのであり、超越論的な「明日の新聞」を最後に掲示して主人公の生を可能性として示す場合もあるが、しかし論理上それは可能性を示すとはいへ、「明日の新聞」が常に例外なく主人公の死を報ずる新聞である以上、現実に生きる読者には、やはりそれは死に見える。いや、この生と死の隙間（差異）に依然として生きてゐるといふべきであるかも知れない。

安部公房と同じ死を意識した下降は、小林秀雄の場合には、若年の折り小笠原諸島のいづれかの島の断崖絶壁の縁（ふち）に身を投げようとして立つた時から、最後の作品『本居宣長』の論語を引いて仁者が徳は天にではなく井戸の深い底にあると聞いて驚いて深い穴へと奔（はし）る姿への批評に至るまで、なまなましく生きてゐる（論語雍也第六の二十六 仁者はこれに告げて、井に仁ありと曰うと雖も、其れこれに従わんや）。このやうな若者に、そして老年に、成熟といふものが訪れたのであらうか。

「故郷のない精神といふものに気がつき出すと、事ごとにその現れがみつかる。極端な場合を考へると特に妙である。歩くのが好きだからよく山へ行く。深い処へ危険な処へと行きたがる。これなんかずい分おかしい、とこの頃合点しはじめた。自然の美しさに感動しに行くのは健全なことだと当人は考へてゐるが、実はそれは日常観念的な焦燥の一種の現れに過ぎないのではないかと思へばまさしくさう思はれて来る。どうも自然を愛するなどといふ現実的なおだやかな筋合ひのものではないらしい。自然美に対する私の感動に、一体どんな確たる現実的な根拠があるか、いよいよ疑はしい。注意してみると山の美しさに酔ふ事と抽象的な観念の美に酔ふ事と実によく似てゐる。故郷を失つた精神の両面を眺めるやうな想ひである。さう思ふと近頃の登山の流行などには容易に信用が置けない。年々病人の数が増える、そんな気がする。」

この「そんな気がする」はまた「疲労した心は社会から逃れて自然に接しやうなどといふ奇妙に抽象的な願ひを起こす。」と云はれてゐる。そして続けて「社会と絶縁した自然の美しさは確かに実質ある世界には違ひなからうが、又そんなものから文学が生まれる筈はない。」とある其の心は、山に登るのは谷へと降りて行くためである、と解すれば、山の中の谷底での死は、世俗から見れば山頂で眺める美を求めての山中での死と見える。小林秀雄の文章が難しいと爾来云はれて来たのは、この一見論理の互ひに背馳した組み合わせにあるのではないのだろうか。河上徹太郎は、これを『友情と人嫌ひ』の中で、小林秀雄の修業時代で此の人間の若さの持つに至つた「この非情で取りつく島もない面つき」と表現してゐる。この時代に小林秀雄が小説を書いて倣ひ習つて吸収した作家は、志賀直哉である。そして小説を書く目的は「嫌人主義、或は犬儒主義が、当時の小林が「哀愁」に対して備へるために用ひた最上の武器であつた。」

このことの次第も、中田耕治と二人で最初期の「世紀の会」を立ち上げた時に耽読したりルケの『涙の壺』を地の文に平たく置いて「涙の壺を蒸留しよう/ミイラになろう」と詩『世紀の歌』を設立宣言文として書いた安部公房にそつくりである。上記の背理と見える二つの論理性を、河上徹太郎は「小林秀雄の青春時代の修業といふものは、さういふ面からいつて、感受性と嫌人性を素朴な本能的な状態に於いて合体させるための努力だつたといつていかも知れない。少くとも私は、このあらゆる友達や殆どすべての先輩たちを悪様にこき降す狷介不屈の友人から、その点を誠実で美しいものに感じ、その点で最も学んだ。」と書いてゐる。「このあらゆる友達や殆どすべての先輩たちを悪様にこき降す狷介不屈の友人」といふ表現は、成城高校生の時代に親しく哲学談義を交はした友、中壘肇の回想する安部公房の姿にそつくりである〔註1〕。

〔註1〕

成城高校時代の哲学談義を親しく交はした友中壘肇によれば「当時の安部は「解釈学」という言葉をむしろデカルト的な懐疑の方法に近い意味に解していた。そして世に横行しているすべての既成観念やイデオロギーを徹底的に批判し、常識の固い地盤を打ち壊すことを試みていた。（これはあるいみで彼の思索を生涯にわたって貫く方法でもある。）ここには彼が既に深く読み込んでいたニーチェとドストエーフスキイ（とくに『地下生活者の手記』）の強い影響があつた。そして私も彼の驥尾に付して同じことをやってみようとした。私たちは懐疑や批判を怠って出来合いの思想に安住する連中を（大哲学者たちを含めて）ドストエーフスキイにならって「大歓喜」と呼んで罵倒した。」（宮西忠正著『安部公房・荒野の人』36ページ）

さて、山に登るのは谷底に下降するためであり、死を遂には求めることになるかも知れぬといふこの考へ方は、安部公房が三島との対談でメトードといふならば、やはり同様に此れが小林秀雄のメトードではないのだろうか。これは上記の文章にも此の背反の論理の統一的な感性の動きは精確に現れてゐて、それは例へば「注意してみると山の美しさに酔ふ事と抽象的な観念の美に酔ふ事と実によく似てゐる。故郷を失つた精神の両面を眺めるやうな想ひである。さう思ふと近頃の登山の流行などには容易に信用が置けない。年々病人の数が増える、そんな気がする。」（傍線引用者）の傍線を引いたところの論理の展開は、河上徹太郎のいふ通りの「「哀愁」に対して備へるために用ひた最上の武器」を使用してゐる。しかし、この武器はイデオロギーではないので、人を殺さない。その人が無私を得る道であ

り、これが此の通りの批評の道であつた。しかし、小林秀雄の一見独断と見える文章の陰にある此のメトードには盲目であるままに、その文体の魅力に魅了されて自分の持つ「哀愁」に抗し切れずに情緒的に模倣をする者が多いのではないだろうか。だから、小林秀雄のではなく、全く別個の自分流の無私を得る道を求め確立しない限り、その思想を自分のものに体得したとは云へない。あなたは、世俗から見れば山の美を求めての山中で死と見えるやうな谷底を探さねばならない。しかし、それすらも観念であれば、一体あなたの人生の実質は何処にあることになるのだろうか？ここが、小林秀雄の真似をすることの目に見えざる、従ひ論理の陥穽です。自分の生きる論理を点検しては如何か。もしあなたが小林秀雄の読者であるならば。

最後に、安部公房の文学が故郷喪失の文学であることは数多（あまた）の読者に論じられ巷間に云はれて来たことなので、敢へて述べることはしません。しかし、これまで諸処既述の通り、安部公房が祖国といふ時には、それは満洲帝国であり日本の国、当時の大日本帝国ではなく、またその後の経済発展を遂げた日本ではなく、そして都市と云へば、そこは一見東京に見えても安部公房の心のうちでは奉天といふ当時帝都東京よりも遥かに本格的なヨーロッパのバロック様式の幾何学的な都市であることを、読者は心に銘記すべきです。そして都市の外部で綿羊と文字で書いても其れは満洲の大陸の綿羊であり（『鏡と呼子』）、豚と書いても或るいひ写真を作品冒頭に掲げても其れは満洲の大陸の豚である（『方舟さくら丸』）。

さうしなければ、日本の読者は皆、自国のこととして此の作家の小説を読みますから大きな誤解を生むことになる。このことを安部公房の読者である私たちが自覚して見なければ、海外の読者の方が大陸に住んでみて、それだけ一層実は安部公房を正解してゐるかも知れないといふことに気づくべきだといふことも一連の『周辺飛行』論の中で此れまで複数回お伝えした通りです。さうしてしかし尚、安部公房スタジオのアメリカ公演での成功は、その劇が少しも前衛的なのではなく、何故ならさうであればそれは退屈な海外の流行の模倣に過ぎないから、さうではなく、むしろ御能に通じてみて非常に日本伝統的な舞台としての受け入れ方をアメリカ人がしたのだといふことを、読者のあなたは此れを逆説とはとらずに、さうして凱旋帰国後の日本での公演の無反応に近い無理解を嘆いた安部公房の短い此の作家には誠に珍しい程に絶望的な言葉（一见さうは見えない）を引用するまでもなく、この作家の慣用句「特殊の中の普遍」を求める道（此れを安部公房は安部公房スタジオの若い役者たちに邪道と言ひ放つてみせた）、この道を全うしたのであるからには、他方、小林秀雄もまた日本語といふ言語と其の生み出した来た日本固有の伝統の中に道を求めて、共にヨーロッパの思想を自家薬籠中のものに、身命を賭して、したからには、安部公房と読者の関係を逆説とはとらずに、前者安部公房の海外での翻訳はいふに及ばず、後者小林秀雄の「問題下降」の翻訳もまた海外に及べば間違ひなく誤解されずに正解されるに決まつてゐるので。即ち、私たちは小林秀雄の批評の中に、日本に特殊なる特殊性を見るのではなく、「特殊の中の普遍」を、文字通りに海外に通用する普遍を見ることができる。

この特殊と普遍の中間地帯である無私の道筋に、両極端に見えながら実は同じ位置にゐる

二人があるならば、青春と故郷を同時に喪失した若者たちの、この東京といふ都市、日本の此の首都の中で、明治以来死屍累々とした日本近代文学の歴史も、この二人に代表される生き方を否応なく強ひられたに相違ない。日本人自身に日本特殊な素性であると誤解されてゐる私小説と呼ばれる藝術家小説も其処から生まれた。散文に詩魂を隠すといふことである。芥川龍之介は、晩年それ故に私小説に強く惹かれた。しかし、谷崎潤一郎は小説に詩は不要であると考へた〔註2〕。冒頭引用した谷崎の言葉は21世紀の今も私たちに回答を迫つてゐるのです。

〔註2〕

『詩的な、余りに詩的な 安部公房と芥川龍之介の共有する小説観』（もぐら通信第85号）に詳述しました。

私は日本の私小説はヨーロッパに翻訳して持つて行つても普遍性がある立派に通用する小説だと考へてゐます。理解されます。たとへ、其れの生まれた場所が、谷崎の云ふ「セセコマシイ天地に跼蹐（きょくせき）してゐるのであつて」も。何故ならヨーロッパの近代小説も、ヨーロッパ固有特殊の告白小説、即ち、其れの生まれた場所が、谷崎の云ふ「セセコマシイ天地に跼蹐（きょくせき）してゐる」私小説であるからです。たとへ国々で、西はスペイン・ポルトガルから東はロシアまで、また言語言語で、地域地域で、作家作家で、現れ方が違つてゐたとしても。しかし、安部公房が読み耽つたポーとルイス・キャロルや、やはり安部公房の好んだドン・キホーテ（を生んだ17世紀を中心とするバロック小説）は、これから外れてゐることが、安部公房の小説も同じ系統に属してゐることになつて海外で広く受け入れられてゐる理由となつてゐるのではないだらうか。即ち、

日本の近代文学史上で小林秀雄のいふ「故郷喪失の文学」とは、その経緯（いきさつ）から云つて同時に青春の喪失であり、不在の父親に耐えて自分の父性を証明するための青春の錯乱でもありますから、日本にあつては家長の喪失と創造、ヨーロッパにあつての最も高度な父性はGodである以上は、ヨーロッパの近代小説も、この父親の不在、不在の父親に耐えて自分の父性を証明するための青春の錯乱に外なりません（近代国家も有機体としてまたさうであつた一日本浪漫派は、三島由紀夫も、此の文脈で理解され論じられねばならないと私は思ふ）。詩人は錯乱の果てに千里眼となる。近代国家は錯乱の果てに共産主義となる。James Joyceの人生の、それを典型的に、また象徴的に、イギリス・イングランドの植民地アイルランドの祖国を自分の意志で脱出し、カソリックを徹底的に否定した、それを亡命と呼んだ姿が、それを示してゐます。望む望まぬとに拘らず、トーマス・マンも、エリアス・カネッティも、安部公房も。ジョイスもマンも、それぞれの故郷の町の人々との間で、故郷を舞台にした小説を巡つて軋轢が起きてゐる。カネッティと安部公房には、それが無いのは、本当に故郷が無いといふことです。小林秀雄が東京といふ故郷と軋轢を起こしたことはないといふことも（軋轢の起きやうがないであらう）、裏返せば、「故郷を失つた文学」が確かに此の批評家にはあるといふことです。

最後に。小林秀雄の無私の道は、上記の通り、常に次のような論理の隙間を通つてゐる。

花の美しさを求めることは「徒然わぶる」ことであり、そのことは、さうやつてあなたが山中に踏み迷ふあなたであるならば、「徒然なるままに」谷へ谷へと「問題下降」して行けば、谷底には美しい花が咲いてゐる。花の美しさなどといふものはない。美しい花があるだけだ。それはあなたが生きることの問題の解決ではないのか。

これが、この批評家の詩魂のあるところで、一見矛盾して見えるが、しかし一本の糸で縫はれて一つになった同じ論理の道筋を下降することが、そのまま此の批評家の時間論になり、歴史を語れば歴史論になり、人間論になつてゐる。任意に引用してみれば、曰く、生者は「鑑賞にも観察にも堪へない」が、死者は「まさに人間の形をしてゐる」（『無常といふこと』）。曰く「僕らは西行と実朝とを、まるで違つた歌人の様に考へ勝ちだが、実は非常によく似たところのある詩魂なのである。（『実朝』）。曰く「一つの沈黙を表現するのが自分の目的だ、と覚悟した小説家、（略）あれこれの思想、言ひ換へれば相手を論破し説得する事によつて僅かに生を保つ様な思想に倦き果てて、思想そのものの表現を目指すに至つた思想家、さういふ怪物達は、現代にはもはやゐないのである。」（『モーツァルト』）

小林秀雄の論理で云へば、「思想そのものの表現を目指すに至つた思想家」、「一つの沈黙を表現するのが自分の目的だ、と覚悟した」小説家安部公房は、怪物達の一人といふことになります。これは、初期安部公房論で十分に、リルケとの関係で論じたところです（『安部公房の初期作品に頻出する「転身」といふ語について』もぐら通信第56号から第59号）。

さうして、二人の共有する塔は「故郷喪失の塔」であり、小林秀雄にあつては時間論の塔であり、安部公房にとつては存在論の、また時間を捨象した、道筋は同じ下降でも其れ故に正反対と見える空間論の、山の上に立つ「概念の塔」、即ち小林秀雄の云ふ「思想そのものの表現を目指すに至つた思想家」の、御能にも通ずる安部公房スタジオの舞台の示す通りの、鷗外の塔が国家の「沈黙の塔」であるのに対して、個人の「沈黙の塔」、これが二人の共有する塔であつた。安部公房も小林秀雄も、人間の生理を含めた自然といふものの中に存在する沈黙といふこと余白のあるといふことを最も大切にした。これが、二人の故郷であつた。

『本居宣長』の冒頭に写されてゐる宣長の遺言書にある「本居宣長之奥津紀」は、横ではなく縦に立つてゐて、背景に指定されて立つ山桜の一本（ひともと）と重なり、山桜の木と宣長は合はさつて一つの塔のやうに見える。鎌倉の東慶寺にある小林秀雄の墓所は小さき塔である。

6. 安部公房の塔と大江健三郎の塔

(次号に続く)

私の本棚

(32)

逢坂剛著『鏡影劇場』を読む

岩田英哉



同時代を生きる純文学の作家はもう私にはみないし、この用語も死語になつてゐることが其れを証拠立ててゐるが、しかし逢坂剛といふエンターテインメントの作家は一緒の時代を共有して作品が出るたびに読むことの愉樂を与へてくれる作家です。エンターテインメント (entertainment) と書くのは娯楽小説の作家とか通俗小説の作家と呼ぶには、勿論私は『小説オール読み物』とか『小説新潮』を買つてこれらの小説も読みますし、通俗小説は好きですから其の手の読者の一人なのですが、しかし此の作家は、さう呼ぶには余りに高級な趣味の横溢した小説の書き手なので、他に言葉がないからです。この小説家の開巻最初のページを開くとやはりショーの時間が始まつて、客席でワクワク・ドキドキしながら開幕を待つてゐると、冒頭で思ひがけぬ事件が起きて、読者は一気に其の世界へと引きずり込まれる。漫才で云ふツカミの速さがいつもながら素晴らしい。

この作家の其の最新刊が『鏡影劇場』です。680ページに及ぶ長編小説です。最後の58ページはエラーリー・クイーンの小説の最後の謎解きの始まる直前のページに作者からの挑戦状が書かれてゐると同様の趣向になつてゐるのみならず、文字通りに物理的な袋閉ぢになつてゐて、読者は最後の解決篇の複数のどんでん返しを知るために、実際に鉄を入れて開封しなければならないといふ手のこみやうなのです。この小説を読むのに私は三日を意図的に掛けました。早く読み過ぎるのがもつたいないからです。期待に違はぬ出来で、近頃珍しいことに最新刊の小説を読むことに私は満足しました。

この大作を読んで、何故私が此の作家の作品にいつも惹かれるのか其の理由がはつきりしました。それは、この大作の主人公がドイツの作家E.T.A.ホフマンであつて、この作家は私が学生時代に知つて以来私の好みの作家でもあり、東ドイツにゐた頃に濃い緑色で染めた布製の装幀の三巻本のホフマン全集を買ひ、収録されてゐる作品の重複を厭はずに更に、これは皮革装幀版の『セラピオン同盟』全二巻本を買ひ、これも灰色の布装幀の一冊『牡猫のムルの生活と意見』を買ひ、今に至るまで大切に持つてゐて、折に触れてあつちを読みこつちを読みして時間を掛けて読み継ぐのを楽しみにして来た作家であるからです。装幀を見ると共産主義下にあつても怪奇な作家ホフマンは読者がゐて、つまり共産黨員にもまともな読者がゐて大切にされてゐたやうです。私は怠惰にして、まだ全巻を読破してゐない。しかし他方、逢坂剛もまた学生時代よりホフマンが好きで此の間資料を集めてゐて小説を遂に書くに至つたといふ、勤勉なる作家の畢生の大作を怠惰なる読者が読み耽つたといふ図です。私と此の作家がE.T.A.ホフマンを共有してゐたとは。

この作品が良い加減な作品ではなく、作者の好みも作中徹底してゐることは、巻末にある日独英に及ぶ参考文献の主要な一部の列挙を見ればわかるでせうし、何よりも本文を読んでみて、その絶妙な事実と虚構の合はせ鏡の仕掛けは美事といふ以外にはありません。「鏡影劇場」といふ名前の鏡影とは、ホフマンを中心に置いて、ホフマンの生きた後半生の19世紀のドイツ、特にホフマンの居住したバンベルクとベルリンと此の21世紀の東京の間を、ホフマンの人生を記述して妻のミーシャに報告し続ける謎の報告者ヨハネスの記(しる)すノートと作者逢坂剛の文章に描かれる本間鋭太といふホフマンの熱狂的愛好家のドイツ文学者を巡る話と、これら二つの世界の間を二重写しにして、それぞれの世界にある謎を解きながら又同時に照応させながら、そして二つを往来しながら、話が進むといふ構造化を作者は図つてをり、これが従ひ、二重三重の合はせ鏡の世界になつてゐて、小説の題名に入つてゐるのです。非常に実証的に資料を使つてゐるので、余計な疑ひの入り込む余地がないので、その分作者の創造した虚実の皮膜に存在する世界に楽しんで遊ぶことのできるが故に、非常に読み応へのある小説となつてゐます。本間鋭太とは、もちろん、E.T.A.ホフマンのもぢりです。E.T.Aとはドイツ語でエー・テー・アーと発音します。

安部公房の読者に此の話の構成で訴求するところがあるとすれば、二つのことがある。一つは、この作品の全体が、本間鋭太から逢坂剛の手元に送られて来たのは3.5インチのフロッピー・ディスク二枚の媒体に入れられて前触れなしに送られて来たといふ話の発端でせう。そして二つ目は、物語は袋綴ちを開封した後に一層の謎解きへと其の中で一層合はせ鏡の世界が焦点を結び、即ち安部公房の小説と同じ再帰的な自己へと登場人物の幾人もが二重に写された名前と共に回帰して行く果てしの無い物語となつてゐる事です。

逢坂剛の傑作は長編短編幾つもありますが、『クリヴィツキー症候群』(同名の新潮文庫収載)は、何度読み返しても飽きない傑作です。

逢坂剛は、ワープロの日本語にとつての漢字仮名変換の使い勝手の良さを、PCなどより遥かに優れてゐると袋綴ちの最後のところで褒めてゐるので、ひよつとしたら今でもワープロを使つて書いてゐるのかも知れない。とすれば、これが安部公房の読者に訴求する三つ目と云ふことになります。

最後に、以下ネット上から拾つた読者の感想三つです(読書メーター：<https://bookmeter.com/books/16552202>)：

『カディスの赤い星』みたいな冒険モノを期待していただけに、この内容で、このボリュームは正直私にはしんどかった。

『墓石の伝説』で西部劇の蘊蓄を傾けた時と似ているようでした。

冒頭のスペインでのシーン。ソルと思われる手書きの譜面と19世紀ギターのエピソードがなければ恐らく途中で投げ出してしまったと思う。ホフマンは読んだ事もなかったし知識といえばこの本にも紹介されている「ホフマン物語」を辛うじて知っているくらい。なんとか読了出来たのはやはり作者の筆力なんだろうな。昔読んだ荒巻義雄の何故かしら「エッシャー宇宙の探偵局」を思い出した。

逢坂剛は、新作をコンスタントに読んでいる作家です。700 頁弱+二段組+袋綴じと渾身の超大作、ギター+ヨーロッパ（ドイツ&スペイン）+古文書と著者の真骨頂のマトリョーシカ歴史ミステリ、遊び心も満載でした。私は第二外国語でドイツ語を履修していましたが、ETAホフマンは全く知りませんでした（笑）夏目漱石や江戸川乱歩らに影響を与えたホフマンの作品を機会を見つけて読んでみたいと思います。

Mole Hole Letter

(12)

岩田英哉

秋は来ぬ

東京は遙か西、吾が侘び住まひせる此処、由木の里にも秋は来たりぬ。朝夕寒くなりました。

読みたき本多々あり。椅子に座つて手の届くところにあの本この本が自然に集まり始めた。読書の秋といはれる通俗に合はせたわけではありません。読書は季節に関係なくするものですから。東京に出て来た若い時に、歩きながら本を読んでみて、商店街の煙草屋の丸くて大きくて真つ赤な地に白抜きでタバコと書いてあるトタンでできた看板に頭を打ち付けて、銅鑼の鳴るやうな大きな音が、通り過ぎて四五足行つてから聞こえたやうに思つたので振り向くと其の看板が前後に揺れてゐた。あつ、頭を打ち付けたのだと思つた途端に額に痛みが来た（これをトタンの苦しみと云ふ）。その読み耽つた本が歳を経てまた我が身にやつて来たのか。トーマス・マン、カフカ、安部公房、ゲーテの西東詩集、『アガサ・クリスティ自伝』、ルイス・キャロル、『復刻エラリー・クイーンズ・ミステリ・マガジン』、完本シャーロック・ホームズ全作品全一卷、ボビー・フィッシャーの伝記『完全なるチェス』、そして文法書、即ちドイツ語（これは授業には全く出ず試験の一と月前をかけて関口存男の文法書で独学した）、ラテン語（これは江藤淳にフランス文学ではなく英文学に行くことを薦めた藤井昇さんとい当時教授に途中まで教はつたが大方忘れてしまった）、古代ギリシャ語（これもプラトンを読んでソクラテスの教へを直かに学びたいと思つて授業に出たが途中で投げつけてしまつたもの今でも時折開いて此の言語の文法に特殊な文法用語の説明を読むと嬉しい気持ちがある）、私の読書方針は外国の書物は皆原典で読まねばならぬといふ方針であつたので、サンスクリット語、これは余計な雑音を全て取り除いて釈迦の教へに直かに触れたいと思つて—この思ひは道元禅師と同じである—

『サンスクリット文法綱要』を最後まで授業で学んで巻末にあるマーハーバーラタであるかラーマヤナの抄録を原文で読んだのは釈迦の教へを嬉々として裏切りいつも例外なく私の目の前の席に肌の色白く美しい脚のミニスカートの匂ふが如き女子学生がもう一人の友人と並んで例外なく出席してゐたからでドイツ語と違つて私は一年間一度の欠席もなく皆勤賞であつたし今でも此の文法書を時折開いて名詞の7つの格変化やドイツ語の格変化より3つも多いのだ—動詞の例外の多い複雑な活用を目にするたびに言語の持つ深いエロスを感じるのはいふまでもなく、そして日本古典語の辞書たちに、『赤塚不二夫1000ページ』（扶桑社）—本当は題名に「天才赤塚不二夫」と入れて欲しかつた—、ショーペンハウアー、デカルトにプラトンにソクラテスの皆さん、本居宣長に源氏物語に私の憧れの小説家滝沢馬琴、エリアス・カネッティの『群衆と権力』はいふまでもなく、小林秀雄に筒井康隆に兼好法師に……。

しかし思へば、結局これらの天才たちの掲げてゐる看板に私は毎日頭を打ち付けてゐるのは（トタンの苦しみである）、歩かうが歩くまいが同じことだと此の一文を書きながら名前を挙げながら気づくとは、無季の世界に生きる私であるか、なるほど確かに、生者とは時間の中で何時も別れるが、死者とは別れることはないのだと思ふ秋の日の、木々の黄変を眺めやり、その向かう遙かに仰ぐ眺望山々。

[註1]

先生は前田専学さんといふ小さくて可愛らしい先生であつたが今調べると飛んでもない偉い先生であることに驚く。前田先生の方を見ずに今頃になつて済みませんでした。（<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%89%8D%E7%94%B0%E5%B0%88%E5%AD%B8>）：

前田専學：

「愛知県名古屋市に生まれる。実兄は原始仏教及び上座仏教研究者の前田惠學、祖母は日本画家の前田錦楓。

1955年東京大学文学部印度哲梵文学科卒、同大学院修士課程、博士課程修了後、フルブライト奨学生として米国ペンシルベニア大学大学院（博士課程）に留学。修了後同大学助教授などを経て、1982年に東京大学印度哲学科教授。1991年定年退官、名誉教授。武蔵野大学教授・副学長を歴任。1973年文学博士（東京大学）。

インド哲学仏教学・比較思想学・東洋思想学研究の第一人者だった中村元の直弟子で、後継者の一人。中村元の退官後に講座を継いだ。中村の没後に、インド学仏教学・比較思想および東洋思想の発展を目指し創設した「財団法人東方研究会・東方学院」（現在:公益財団法人中村元東方研究所）理事長・学院長職を引き継いだ。

インド・中国・韓国・アメリカ・ヨーロッパなど世界の国々の学界に学際的研究成果を発表している。なお日本最古の学校である足利学校の庠主（しょうしゅ、学長）に就くなど、人文教育の顕彰も行っている。」



頭がスカラベで表現された太陽神ケプリ

糞尿と性愛の文学

～生殖器・排泄器同一社会論仮説～

(1)



岩田英哉

もし他の人々が気違ひにならなかつたら、
我々が気違ひにならねばならぬだらう
ウィリアム・ブレイク

目次

0. はじめに

1. 古事記の中の糞尿と性愛

2. 夏目漱石の廁

3. 大江健三郎の「われらの狂気を生き延びる道を教えよ」

4. 谷崎潤一郎の「陰影礼賛」

5. 森鷗外の「キタ・セクスアリアス」

6. 芥川龍之介の「好色」と「尼提」（にだい）

7. マルセル・デュシャンの「泉」と「大ガラス」

8. 稲垣足穂の「A感覚とV感覚」

9. 三島由紀夫の「仮面の告白」と「All Japanese are perverse」

10. 沼正三の「家畜人ヤプー」

11. リルケの「オルフェウスへのソネット」

12. パゾリーニの「ソドムの市」

13. 安部公房の「ソドムの死（散文詩）」と「便器にまたがった思想」

14. をはりに

1. 古事記の中の糞尿と性愛

1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚



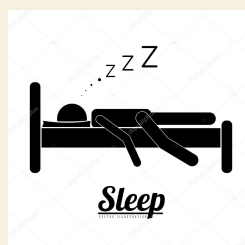
ネット・メディア論 (12)

岩田英哉

目次

- 0. はじめに
- 1. 国家とは何か
- 2. 用語の定義
- 3. メディアとは何か
 - 3.1 マス・メディアとは何か (20世紀)
 - 3.2 ネット・メディアとは何か (21世紀)
- 4. ネット・モナド論
- 5. 公私とは何か
- 6. 二階層戦争論とメディア論の関係
 - 6.1 ネット・メディアの問題を二階層戦争論で考察する
 - 6.2 ネット・ヘゲモニー問題とは何か
 - 6.3 二階層戦争論による解決策
 - 6.4 空気とは何か
 - 6.4.1 空気の定義
 - 6.4.2 オロチXの定義
 - 6.4.3 同調圧力とconformityと空気の関係
 - 6.5 何故民主主義は共産主義であるのか
- 7. 政治形態と自由
 - 7.1 政治形態とは何か
 - 7.2 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い
 - 7.3 公私の最小単位再説
 - 7.4 政治形態E&Aの公私：一神教のtopologyの政治形態
 - 7.5 政治形態Jの公私：高天原のtopology (超越論) の政治形態
- 8. 経済形態と自由
 - 8.1 経済形態とは何か
 - 8.2 資本主義と政治形態Jを如何に一つにするか
 - 8.3 ネット・メディアの役割
- 9. 私たちは如何に生きるべきか
 - 9.1 学歴無用論：盛田昭夫著『学歴無用論』
 - 9.2 学問有用論：福沢諭吉著『学問のすすめ』
 - 9.3 グローカリストとしての千利休 (令和時代の人間像)

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章



縄文紀元論

Topologyで日本人を読み解く (12)

5.15 縄文土器とは何か

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか

岩田英哉

目次

I 縄文紀元日本語論

1. 日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかみないのか？

2. 日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か

3. 五十音表を記号化する

4. 日本人の言語宇宙

5. 古事記の宇宙観

5.1 高天原とは何か1

5.2 カミとは何か1

5.3 高天原とは何か2

5.4 日本語の特殊の中の普遍

5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

5.6 天照大神とは何か

5.7 月読命とは何か

5.7.1 月とは何か

5.7.2 月読命とは何か

5.7.3 月読神社とは何か

5.7.4 ヤシロとは何か

5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

5.7.6 磐座と注連縄の関係

5.7.7 亀の甲羅とは何か

5.7.8 習合とは何か

5.8 カタカナとひらかなの関係

Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしているのか

5.9 日本位相習合史

5.10 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

5.11 かがめかごめの歌は一体何を歌っているのか

5.12 縄文土偶とは一体何か

5.13 習合といふ漢意をやまところ何といふのか

5.13.1 位相史のための紀元の分類

5.13.2 淤能基呂島とは何か

5.15 縄文土器とは何か

(1) 縄文基本用語の分類

(2) 縄文土器の構造的スケッチ（素描）

5.16 大祓を読み解く

5.16.1 何故私たちは御祓を必要とするのか

5.16.2 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

5.16.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

(2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか

5.16.4 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

5.17 紫式部の超越論『源氏物語』

5.18 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

5.19 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

5.20 日本人はどこから来たか

青字は既論の章、赤字
は今回論ずる章、黒字
はこれから論じる章

II Topologyで縄文土器を読み解く

0. 縄文土器の概念と分類

1. 紋様とは何か。目とは何か

2. 縄文土器の構成要素

3. 縄紋は縄目と渦巻き紋様で出来てゐる

4. 縄文土器は三階層で出来てゐる

5. 縄文土器には開口土器と閉口土器の二種類がある

6. 縄文土器は私たちの宇宙観を体現してゐる

7. メディア（媒体）としての縄文土器

8. 弥生式土器は二階層で出来てゐる

9. メディア（媒体）としての弥生式土器

10. 縄文土器と弥生式土器の関係（topologicalな連続性）：3（奇数）から2（偶数）へ

11. 銅鐸は7階層で出来てゐる

12. 縄文土器の政治と弥生式土器の政治：土器と政治の一体と分離：銅鐸とは何か1

13. 縄文土器の経済と弥生式土器の経済：土器と経済の一体と分離：銅鐸とは何か2

IV 21世紀の現代に縄文土器はどのやうに生きてゐるか

VII 20世紀の幕を閉ぢ、21世紀に生きるための結語

目次

5.1 6 縄文土器とは何か

5.1 6.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

(2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓へ

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓への結果どうなったか

5.1 6.4 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

5.1 6.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(2.1) 第二段補遺

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓への結果どうなったか

大祓へに読まれる伊豆箱根の地に、神山と云ふ山あり、また葛城山なる山もあり、此の地へ行きて山を登りまた降りて来るの間、

待て次号 日高見國の 神山に 降る瓊瓊杵（ににぎ）の 御言（みこと）聞くまで



Topologyで日本の文化を解説する

「内なる辺境」シリーズ

(12)

扇子

岩田英哉

『縄文紀元論』で至った結論を元に、奇想天外な論を展開してみたい。

コトシロ・カタハ、猷立・縄文土器、磐座・注連縄、カタカナ・ひらかな、御陵・御堀、御城・御堀、御花・花器、御抹茶・茶器といふ関係を、そのまま扇子に適用するとどうなるか。



連載物・単発物次回以降予定一覧

- (1) 安部浅吉のエッセイ
- (2) もぐら感覚23：概念の古塔と問題下降
- (3) 存在の中での師、石川淳
- (4) 安部公房と成城高等学校（連載第8回）：成城高等学校の教授たち
- (5) 存在とは何か～安部公房をより良く理解するために～（連載第5回）：安部公房の汎神論的存在論
- (6) 安部公房文学サーカス論
- (7) リルケの『形象詩集』を読む（連載第15回）：『殉教の女たち』
- (8) 奉天の窓から日本の文化を眺める（6）：折り紙
- (9) 言葉の眼12
- (10) 安部公房の読者のための村上春樹論（下）
- (11) 安部公房と寺山修司を論ずるための素描（4）
- (12) 安部公房の作品論（作品別の論考）
- (13) 安部公房のエッセイを読む（1）
- (14) 安部公房の生け花論
- (15) 奉天の窓から葛飾北斎の絵を眺める
- (16) 安部公房の象徴学：「新象徴主義哲学」（「再帰哲学」）入門
- (17) 安部公房の論理学～冒頭共有と結末共有の論理について～
- (18) バロックとは何か～安部公房をより良くより深く理解するために～
- (19) 詩集『没我の地平』と詩集『無名詩集』～安部公房の定立した問題とは何か～*
- (20) 安部公房の詩を読む
- (21) 「問題下降」論と新象徴主義哲学
- (22) 安部公房の書簡を読む
- (23) 安部公房の食卓
- (24) 安部公房の存在の部屋とライブニッツのモナド論：窓のある部屋と窓のない部屋
- (25) 安部公房の女性の読者のための超越論
- (26) 安部公房全集未収録作品
- (27) 安部公房と本居宣長の言語機能論
- (28) 安部公房と源氏物語の物語論：仮説設定の文学
- (29) 安部公房と近松門左衛門：安部公房と浄瑠璃の道行き
- (30) 安部公房と古代の神々：伊弉册伊弉諾の神と大国主命
- (31) 安部公房と世阿弥の演技論：ニュートラルといふ概念と『花鏡』の演技論
- (32) リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む
- (33) 言語の再帰性とは何か～安部公房をよりよく理解するために～
- (34) 安部公房のハイデッガー理解はどのやうなものか
- (35) 安部公房のニーチェ理解はどのやうなものか
- (36) 安部公房のマルクス主義理解はどのやうなものか
- (37) 『さまざまな父』論～何故父は「さまざま」なのか～
- (38) 『箱男』論II：『箱男』をtopologyで解読する
- (39) 安部公房の超越論で禅の公案集『無門関』を解く
- (40) 語学が苦手だと自称し公言する安部公房が何故わざわざ翻訳したのか？：『写真屋と哲学者』と『ダム・ウエイター』
- (41) 安部公房がリルケに学んだ「空白の論理」の日本語と日本文化上の意義について：大国主命や源氏物語の雲隠の巻または隠れるといふことについて
- (42) 安部公房の超越論
- (43) 安部公房とバロック哲学
 - ①安部公房とデカルト：cogito ergo sum
 - ②安部公房とライブニッツ：汎神論的存在論
 - ③安部公房とジャック・デリダ：郵便的 (postal) 意思疎通と差異
 - ④安部公房とジル・ドゥルーズ：褻といふ差異
 - ⑤安部公房とハラルド・ヴァインリッヒ：バロックの話法
- (44) 安部公房と高橋虫麻呂：偏奇な二人 (strangers in the night)
- (45) 安部公房とバロック文学
- (46) 安部公房の記号論：《 》 〈 〉 () [] 「 」 『 』 「……」
- (47) 安部公房とパスカル・キニャール：二十世紀のバロック小説（1）
- (48) 安部公房とロブ＝グリエ：二十世紀のバロック小説（2）

- (49) 『密会』論
- (50) 安部公房とSF/FSと房公部安：SF文学バロック論
- (51) 『方舟さくら丸』論
- (52) 『カンガルー・ノート』論（済み）
- (53) 『燃えつきた地図』と『幻想都市のトポロジー』：安部公房とロブ＝グリエ
- (54) 言語とは何か II（済み）
- (55) エピチャム語文法（初級篇）
- (56) エピチャム語文法（中級篇）
- (57) エピチャム語文法（上級篇）
- (58) 二十一世紀のバロック論
- (59) 安部公房全集全30巻読み方ガイドブック
- (60) 安部公房なりきりマニュアル（初級篇）：小説とは何か
- (61) 安部公房なりきりマニュアル（中級篇）：自分の小説を書いてみる
- (62) 安部公房なりきりマニュアル（上級篇）：安部公房級の自分の小説を書く
- (63) 安部公房とグノーシス派：天使・悪魔論～『悪魔ドゥベモウ』から『スプーン曲げの少年』まで
- (64) 詩的な、余りに詩的な：安部公房と芥川龍之介の共有する小説観（済み）
- (65) 安部公房の/と音楽：奉天の音楽会
- (66) 『方舟さくら丸』の図像学（イコノロジー）
- (67) 言語貨幣論：汎神論的存在論からみた貨幣の本質：貨幣とは何か？
- (68) 言語経済形態論：汎神論的存在論からみた経済の本質：経済とは何か？
- (69) 言語政治形態論：汎神論的存在論からみた政治の本質：政治とは何か？
- (70) Topologyで神道を読む（1）：祓詞と祝詞と結界のtopology
- (71) Topologyで神道を読む（2）：結び・畳み・包みのtopology

[シャーマン安部公房の神道講座：topologyで読み解く日本人の世界観]

- (71) 超越論と神道（1）：言語と言霊
- (72) 超越論と神道（2）：現存在（ダーザイン）と中今（なかいま）
- (73) 超越論と神道（3）：topologyと産霊（むすひ）または結び
- (74) 超越論と神道（4）：ニュートラルと御祓ひ（をほらひ）
- (75) 超越論と神道（5）：呪文と祓ひ・鎮魂
- (76) 超越論と神道（6）：存在（ザイン）と御成り
- (77) 超越論と神道（7）：案内人と審神者（さには）
- (78) 超越論と神道（8）：時間の断層と分け御霊（わけみたま）
- (79) 超越論と神道（9）：中臣神道の祓詞（ほらひことば）をtopologyで読み解く：
古神道の世界観
- (80) 三島由紀夫の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (81) 安部公房の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (82) 『夢野乃鹿』論：三島由紀夫の「転身」と安部公房の「転身」
- (83) バロック小説としての『S・カルマ氏の犯罪』
- (84) 安部公房とチョムスキー
- (85) 三島由紀夫のドイツ文学講座
- (86) 安部公房のドイツ文学講座
- (87) 三島由紀夫のドイツ哲学講座
- (88) 安部公房のドイツ哲学講座
- (89) 火星人特派員日本見聞録
- (90) 超越論（汎神論的存在論）で縄文時代を読み解く
- (91) 「『使者』vs.『人間そっくり』」論

- 巻頭詩（12）：娘時代の名前：フィリップ・ラーキン（2）：これがラーキン二作目の紹介です。ラーキンはこれが最後です。イギリスの詩人の次回はまた別の詩人をと考へてみます。英文学の専門家は別にして、日本の詩人も多分知らないでせう。
- 【全集未収録作品】アジキリはかせのこまったはつめい：安部公房：これは解説に書いた通りの時期の安部公房作品。話の論理は安部公房らしい。結末がめでたしめでたしばかりのお話を子供たちに聞かせ過ぎたので、大きくなって（図体だけは）、今のやうな酷い世の中になつたのである。この話を読んで大きくなつた子供たちの中には、安部公房の読者になつた子供たちもゐることとせう。あなたも其の一人ではないか？
- 『周辺飛行』論（35）：3。『周辺飛行』について（21）：「友達」の稽古も——周辺飛行32：「別役実の『友達』論」論も一緒に：別役実の演劇論を知ることになるとは一石二鳥でした。当時の他の劇団を率いた唐十郎その他の人たちに、このやうな理論篇があつたものか如何か。いづれにせよ、当時の前衛劇といはれアングラといはれた劇のことの次第が少しわかつたことが成果でした。安部公房と寺山修司を論ずる地ならし篇となりました。
- 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（7）：塔の文学：5。小林秀雄の塔と安部公房の塔：東京生まれ東京育ちの人たちは自分が故郷喪失者だといふ自覚は乏しいのではないのだろうか。本当の江戸つ子は別にして。しかし今回の考察で、小林秀雄の人生観がよくわかつたのは、これも、成果でした。これで『無常といふこと』その他の作品を読み返せば、一層よく此の批評家の文章が理解できる筈です。曖昧なところなく隅から隅まで。●私の本棚（32）：逢坂剛著『鏡影劇場』を読む：これもご最良の逢坂剛。この後『熱き血の誇り』も買つてしまつた。二段組で489ページ。中華謹製ヴィルスよ、もつと続いてをくれ。我は怠惰に閉ぢ籠り読書三昧に耽る日々かな。
- Mole Hole Letter（12）：秋は来ぬ：トタンの苦しみを書きました。山々は高く、我は谷底から山巔を眺めるのみ。この痛みは、東京の商店街を歩いてみた時の経験。吾が生まれ育ちし北海道にこんな商店街なるものはそもそもない。●糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（2）：60ページを目安にしてゐるので、今回は掲載せず。60ページを超えると誤植が多くなるからです。我が編集能力の限界なり。また次号。といふわけで、以下同じ。いづれも頭の中で原稿はできてゐるので、あとは書くだけ。●では、また、次号。

差出人：

廣安部公房

〒182-0003東京都調布

市若葉町「閉ざされた無

限」

次号の原稿締切は超越論的にありません。いつでもご寄稿をお待ちしています。

次号の予告

超越論的に、白紙である。

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館、コロンビア大学東アジア図書館、「何處にも無い圖書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。

